令和６年度

公益社団法人　日本薬理学会

学術評議員会・通常総会資料

令和６年３月２０日(水・祝) １０時４０分より
オンサイト（大阪医科薬科大学阿武山キャンパス：大阪府高槻市）と
オンラインによるハイブリッド開催

資料目次

Ⅰ.	令和５年度事業報告	1
Ⅱ.	令和５年度決算報告	7
Ⅲ.	令和６年度事業計画	19
Ⅳ.	令和６年度収支予算	22
Ⅴ.	名誉会員候補者一覧	26
Ⅵ.	永年会員候補者一覧	27
Ⅶ.	規則の制定・変更	28
Ⅷ.	理事会等報告	33
Ⅸ.	委員会等報告	36
Ⅹ.	新学術評議員候補者一覧	47
Ⅺ.	薬理学エデュケーター認定者一覧	49

日本薬理学会ホームページ
〈 https://www.pharmacol.or.jp 〉

日本薬理学会ホームページ英語版
〈 https://pharmacol.or.jp/e/ 〉

ＪＰＳホームページ
〈 https://www.journals.elsevier.com/journal-of-pharmacological-sciences 〉

公益社団法人日本薬理学会

令和 6 年度学術評議員会及び通常総会

１．開催日時：令和 6 年 3 月 20 日（水・祝）10 時 40 分より

２．開催場所：オンサイト（大阪医科薬科大学阿武山キャンパス：大阪府高槻市）と
オンラインによるハイブリッド開催

３．付議事項

第 1 号議案　　理事，監事選任の件

第 2 号議案　　令和 5 年度事業報告及び収支決算承認の件

第 3 号議案　　令和 6 年度事業計画及び収支予算の件

第 4 号議案　　諸規則の件

第 5 号議案　　名誉会員及び永年会員の件

第 6 号議案　　第 99 回年会長及び第 100 回年会長の件

第 7 号議案　　新学術評議員の件

代 議 員 一 覧

(任期：2022 年 9 月 5 日から 2024 年に実施される代議員選挙の日まで)

【北 部 会】(18 名)

飯塚　健治	飯村　忠浩	小原祐太郎	加藤　幸成	久米　利明	笹岡　利安
佐々木拓哉	佐藤　久美	丹野　孝一	中川　　崇	中山　　恒	新田　淳美
溝口　広一	森口　茂樹	柳川　芳毅	山脇　英之	結城　幸一	吉川　雄朗

【関東部会】(51 名)

相澤　直樹	安達　一典	天野　英樹	安西　尚彦	安東賢太郎	池谷　裕二
池田　和隆	石川　智久	石毛久美子	礒濱洋一郎	上田　泰己	大内　基司
大谷　直由	粕谷　善俊	亀井　淳三	木内　祐二	北嶋　　聡	吉川　公平
木村　　徹	小林　真之	坂本　謙司	櫻井　　隆	佐藤　　薫	沢村　達也
千本松孝明	高田　龍平	武田　泰生	田中　　光	田辺　光男	田野中浩一
茶木　茂之	辻　　稔	冨田太一郎	戸村　裕一	中原　　努	中村　浩之
成田　　年	橋本　弘史	林　啓太朗	林　　良憲	藤田　智史	藤田　朋恵
堀　　正敏	眞鍋　一郎	溝口　尚子	宮川　和也	森　　友久	山澤徳志子
山田　充彦	山本　清文	吉澤　一巳			

【近畿部会】(51 名)

相澤　風花	青山　峰芳	吾郷由希夫	東　　泰孝	安東　嗣修	池田　康将
石井　　優	石澤　啓介	石澤　有紀	衣斐　督和	今井由美子	岩田　和実
位田　雅俊	小澤光一郎	金子　周司	金田　勝幸	川畑　篤史	北市　清幸
北岡　志保	北中　純一	北中　順惠	北村　佳久	北村　佳久	合田　光寛
酒井　規雄	酒井　大樹	座間味義人	嶋澤　雅光	新谷　紀人	高井　真司
高田　和幸	田熊　一敞	田中　康一	田中　智之	土屋浩一郎	冨田　修平
永井　　拓	中川　貴之	奈邉　　健	新村　貴博	野田　幸裕	野村　　洋
檜井　栄一	日比野　浩	藤尾　　慈	益岡　尚由	見尾　光庸	森岡　徳光
八木　健太	山村　　彩	吉栖　正典			

【西南部会】(18 名)

朝霧　成挙	池田　龍二	岩本　隆宏	香月　博志	金子　雅幸	河原　幸江
栗原　　崇	齊藤　源顕	清水　翔吾	首藤　　剛	高橋　富美	西田　基宏
根本　隆行	東　洋一郎	本田　　健	茂木　正樹	山口　　拓	和田孝一郎

以上 138 名

Ⅰ．令和５年度事業報告

１．学術集会,講演会等の開催（定款第４条第１号）

(1) 年会の開催

第 97 回 日本薬理学会年会『いのちと科学を薬でむすぶ』

2023 年 12 月 14 日(木)～16 日(土)，神戸国際会議場・神戸国際展示場２号館（兵庫県神戸市）で開催

年 会 長：今井 由美子（医薬基盤・健康・栄養研究所･プロジェクトリーダー）

登録者数：計 1293 名，演題数：789 演題

（会員 727 名，関連学会会員 29 名，大学院生 162 名，学部学生 103 名，非会員 231 名，指定演者 42 名）

プレナリーレクチャー １演題，基調講演 １演題，海外招聘特別講演 １演題，特別講演 18 演題，年会長講演 １演題，年会特別企画シンポジウム ４企画 16 演題，共催・協賛等シンポジウム 15 企画 58 演題，次世代の会企画シンポジウム ２企画８演題，新薬理学セミナー １企画３演題，創薬シーズ特設シンポジウム １企画５演題，ダイバーシティシンポジウム １企画１演題，企業企画シンポジウム ２企画７演題，クスリがわかるシリーズ ３企画３演題，Meet the Professors ２企画２演題，市民公開講座 ２企画３演題，ダイバーシティ推進セミナー １企画２演題，スポンサードシンポジウム ２企画５演題，シンポジウム 35 企画 139 演題，一般演題(口演・ポスター･YIA) 515 演題

(2) 地方部会

第 147 回日本薬理学会関東部会　部会長：廣瀬 謙造（東京大学・院医）
2023 年３月 21 日　東京大学本郷キャンパス（ハイブリッド開催）
参加者 325 名，江橋節郎賞受賞講演 1，学術奨励賞受賞講演３，一般演題（口演 49 題，ポスター34 題）

第 148 回日本薬理学会関東部会　部会長：田中　光（東邦大学・薬）
2023 年６月 17 日　オンライン開催
参加者 253 名，特別講演 1，教育講演 3，一般演題（口演 50 題，ポスター23 題）

第 143 回日本薬理学会近畿部会　部会長：野田 幸裕（名城大学・薬）
2023 年６月 24 日　ウインクあいち
参加者 257 名，一般演題（口演 79 題）

第 74 回日本薬理学会北部会　部会長：久場 敬司（九州大学・院医）
2023 年９月 23 日　秋田カレッジプラザ
参加者 78 名，特別講演 1，シンポジウム 1，一般演題（口演 33 題，ポスター8 題）

第 76 回日本薬理学会西南部会　部会長：筒井 正人（琉球大学・院医）
2023 年 10 月７日　琉球大学医学部
参加者 110 名，特別講演２，ランチョンセミナー1，YIA（口演 12 題，ポスター12 題），一般演題（口演６題，ポスター17 題）

第 149 回日本薬理学会関東部会　部会長：木内 祐二（昭和大学・医）
2023 年 10 月 14 日　昭和大学上條記念館
参加者 207 名，特別講演 1，一般演題（口演 36 題，ポスター24 題）

(3) 市民公開講座の開催

・市民公開講座（第 143 回近畿部会）2023 年６月 25 日　名城大学八事キャンパス薬学部ライフサイエンスホール（新１号館７階）
『愛知の発酵食品の魅力：健康と美食と文化から考える』
講師：加藤 雅士（名城大学情報センター・農）

・市民公開講座（第 76 回西南部会）　2023 年 10 月８日　沖縄県立博物館・美術館
『琉球大学医学部の研究の紹介』
演者：山本 和子（琉球大学・医），益崎 裕章（琉球大学・医），石田 明夫（琉球大学・医），
高槻 光寿（琉球大学・医），喜瀬 勇也（琉球大学・医），首藤　剛（熊本大学・院生命）

・市民公開講座（第 97 回年会）　　2023 年 12 月 15 日　神戸国際展示場 2 号館 3 階 3B 会議室
『未病の医学と数学』
演者：合原 一幸（東京大学国際高等研究所），岩見 真吾（名古屋大学・理）
・市民公開講座（第 97 回年会）　　2023 年 12 月 16 日　神戸国際展示場 2 号館 2 階 2A 会議室
『「きこえ」の重要性 ―人生 100 年心豊かに過ごすために―』
演者：日比野 浩（大阪大学・院医），太田 有美（大阪大学・院医）

(4) 次世代薬理学セミナーの開催
・次世代薬理学セミナー2023 in 東京（第 147 回関東部会開催時ハイブリッド開催）2023 年 3 月 21 日
『グリア細胞を標的とした行動薬理学研究』
・次世代薬理学セミナー2023 in 沖縄（第 76 回西南部会開催時ハイブリッド開催） 2023 年 10 月 7 日
『多様な手法による生命現象解明への挑戦』

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催
・看護薬理学カンファレンス 2023 in 東京，2023 年 6 月 18 日　　大会長：石毛 久美子（日本大学・薬）
・看護薬理学カンファレンス 2023 in 神戸，2023 年 12 月 17 日　　大会長：古屋敷 智之（神戸大学・院医）

(6) 他学会等との共催学術集会の開催
・AMED-CREST/PRIME マルチセンシング領域／JST-CREST マルチセンシング領域との共催シンポジウム
2023 年 3 月 14 日（日本生理学会第 100 回記念大会時），国立京都国際会館
『感覚研究の新時代』
座長：日比野 浩（大阪大学・院医），津田　誠（九州大学・院薬）
・日本毒性学会との合同シンポジウム　　2023 年 6 月 20 日（第 50 回日本毒性学会年会時），パシフィコ横浜
『薬物副作用に関わる性差』
座長：黒川 洵子（静岡県立大学・院薬），上原　孝（岡山大学・院医歯薬）
・日本看護研究学会との公開セミナー　　2023 年 8 月 19 日（第 49 回日本看護研究学会学術集会時），オンライン
『服薬支援を実施するにあたって知っておきたい看護に活かせる薬理学』
座長：赤瀬 智子（横浜市立大学・医看）
・日本感染症学会との共催シンポジウム　2023 年 12 月 14 日（第 44 回日本臨床薬理学会年会時），神戸国際展示場
『抗菌薬開発の問題点；臨床試験マネジメントの実情と課題』
座長：小池 竜司（東京医科歯科大学・HeRD），古賀 道子（東京大学医科学研究所）
・日本学術会議後援 日本医学会連合加盟学会連携フォーラム事業 日本薬理学会・日本解剖学会・日本生理学会・日本衛生学会連携シンポジウム　　2023 年 12 月 14 日（第 97 回日本薬理学会年会時），神戸国際会議場
『ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究』
座長： 西田 基宏（九州大学・院薬），日比野 浩（大阪大学・院医）

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力
・第 9 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting（2023 年 7 月 23 日～26 日，上海）に本会代表とし古屋敷智之教授（神戸大学）が参加した.
・第 2 回国際対応アソシエイツ交流会（2023 年 8 月 2 日）をオンライン開催した.
・ASCEPT 2023 Annual Scientific Meeting（2023 年 11 月 20 日～23 日，シドニー）に講師交換プログラムとして古屋敷智之教授（神戸大学）を派遣した.
・第 97 回年会中に IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会「IUPHAR データベース Guide to Pharmacology, Pharmacology Education Project（PEP）の利用ガイダンス」を開催し，金井好克教授（大阪大学），冨田修平教授（大阪市立大学）が講演した.
・日本学術会議「未来の学術振興構想」に日本解剖学会・日本生理学会・日本薬理学会が合同で「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究のサステナブル循環システムの構築」を提案し，「学術の中長期研究戦略」No.35 に掲載された.
・日本医学会連合領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）の 2023 年度採択事業に参加し，2024 年度 TEAM 事業を提案した.

２．学会誌等刊行物の刊行（定款第４条第２号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号　　151 巻 1～4 号，152 巻 1～4 号，153 巻 1～4 号

	掲載頁数	(篇数)
① Review	15 頁	(3)
② Full Paper	582 頁	(61)
③ Short Communication	62 頁	(13)
合計	659 頁	(77)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数）158 巻 1 号（3,550 部），158 巻 2 号（3,550 部），158 巻 3 号（3,000 部），
158 巻 4 号（3,150 部），158 巻 5 号（3,300 部），158 巻 6 号（3,450 部），

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	17 頁	(17)
② 特集および総説	314 頁	(62)
③ 実験技術	5 頁	(1)
④ 創薬シリーズ	36 頁	(6)
⑤ 新薬紹介総説	97 頁	(10)
⑥ キーワード解説	0 頁	(0)
⑦ 最近の話題	11 頁	(11)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	3 頁	(3)
⑨ 学会便り/研究室訪問	9 頁	(9)
⑩ アゴラ	9 頁	(5)
⑪ 広告	20 頁	
⑫ 綴込み，目次等上記以外の頁	77 頁	
合計	598 頁	(124)

３．研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第４条第３号）

(1) 第 17 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

上田 泰己（東京大学大学院医学系研究科・教授）

(2) 第 39 回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

鈴木 良明（名古屋市立大学大学院薬学研究科・講師）

『カルシウムマイクロドメインによる血管機能制御機構の解明』

永安 一樹（京都大学大学院薬学研究科・助教）

『情動制御およびストレス抵抗性におけるセロトニン神経の役割に関する研究』

矢吹　悌（熊本大学発生医学研究所・准教授）

『プリオン性タンパク質凝集機構の解明と創薬応用に関する薬理学的研究』

(3) 第 28 回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定

Piezo 1 is involved in intraocular pressure regulation.

Wataru Morozumi, Kota Aoshima, Satoshi Inagaki, Yuki Iwata, Shinsuke Nakamura, Hideaki Hara, Masamitsu Shimazawa

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 147, Issue 2, October 2021, Pages 211-221

Novel FABP3 ligand, HY-11-9, ameliorates neuropathological deficits in MPTP-induced Parkinsonism in mice.
Haoyang Wang, Kohji Fukunaga, An Cheng, Yifei Wang, Nariko Arimura, Hiroshi Yoshino, Takuya Sasaki, Ichiro Kawahata
Journal of Pharmacological Sciences, Volume 152, Issue 1, May 2023, Pages 30-38

Combinatorial screening for therapeutics in ATTRv amyloidosis identifies naphthoquinone analogues as TTR-selective amyloid disruptors.
Ryoko Sasaki, Mary Ann Suico, Keisuke Chosa, Yuriko Teranishi, Takashi Sato, Asuka Kagami, Shunsuke Kotani, Hikaru Kato, Yuki Hitora, Sachiko Tsukamoto, Tomohiro Yamashita, Takeshi Yokoyama, Mineyuki Mizuguchi, Hirofumi Kai, Tsuyoshi Shuto
Journal of Pharmacological Sciences, Volume 151, Issue 1, January 2023, Pages 54-62

(4) 第97回年会優秀発表賞（五十音順･6名）

鹿島 哲彦（東京大学・院薬）
福田 雅俊（大阪大学・医）
全　麗麗（国立精神・神経医療研究センター・神経研究所）
宮田 晃志（徳島大学・院医）
三原 大輝（東京大学・院農）
山内 智暁（九州大学・院薬）

(5) 2023年度 JPS 優秀査読者賞

・Kazuho Sakamoto (University of Shizuoka)
・Junko Kurokawa (University of Shizuoka)
・Kazuharu Furutani (Tokushima Bunri University)
・Takayuki Matsumoto (Hoshi University)

４．薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

(1) 第 97 回年会の事前参加登録者に一斉メールを配信し，参加者アンケートを行った．回収した参加者層のデータや参加目的，薬理学会の年会に対する様々な要望を分析し，今後の年会の活性化に生かしていく．

５．内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

(1) 学術集会の共催および連携　上記 1.の(6)参照

(2) 学術集会の協賛･後援　（令和 5 年総会資料掲載以降令和 6 年総会の前日まで）

後 援

1)	「子どもの薬を創る会」第 6 回セミナー	令和 5 年 3 月 23 日
2)	第 72 回 脳の医学・生物学研究会	4 月 15 日
3)	第 17 回トランスポーター研究会年会（JTRA17）	5 月 27 日
4)	「子どもの薬を創る会」第 7 回セミナー	7 月 12 日
5)	第 7 回黒潮カンファレンス	7 月 22 日,23 日
6)	第 13 回トランスポーター研究会九州部会	8 月 5 日
7)	第 28 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会	8 月 25 日,26 日
8)	第 73 回 脳の医学・生物学研究会	8 月 26 日
9)	第 42 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム	9 月 2 日,3 日
10)	第 24 回応用薬理シンポジウム	9 月 16 日,17 日
11)	日本薬物動態学会第 38 回年会/第 23 回シトクロム P450 国際会議国際合同大会	9 月 25 日～29 日
12)	日本動物実験代替法学会第 36 回大会	11 月 27 日～29 日
13)	創薬薬理フォーラム第 31 回シンポジウム	11 月 30 日
14)	日本ハーブ療法研究会 第 9 回学術集会	12 月 2 日
15)	第 33 回神経行動薬理若手研究者の集い	12 月 13 日
16)	「子どもの薬を創る会」第 8 回セミナー	12 月 26 日
17)	第 33 回日本循環薬理学会	令和 6 年 1 月 27 日
18)	ITMAT Kyoto University International Symposium	3 月 10 日,11 日
19)	「子どもの薬を創る会」第 9 回セミナー	3 月 11 日

協 賛

1)	第 30 回 HAB 研究機構学術年会	令和 5 年 5 月 25 日,26 日
2)	第 50 回日本毒性学会学術年会 JSOT2023 毒性学ってナンだ？－そしてその先へ－	6 月 19 日～21 日
3)	第 25 回 活性アミンに関するワークショップ	8 月 26 日

6．会議等の開催状況（令和 5 年総会資料掲載以降令和 6 年総会前日まで）

総　　会	令和 5 年度 通常総会	令和 5 年 3 月 21 日	（東京）
学術評議員会	令和 5 年度	令和 5 年 3 月 21 日	（東京）
理　事　会	第 2 回	3 月 20 日	（東京＆Zoom）
	第 3 回	8 月 28 日	（Zoom）
	第 4 回	12 月 13 日	（神戸＆Zoom）
	令和 6 年度 第 1 回	令和 6 年 3 月 4 日	（決議の省略）
総務委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 8 月 18 日	（Zoom ミーティング）
	第 2 回	11 月 13 日	（東京＆Zoom）
財務委員会	令和 5 年度 2 回	令和 5 年 7 月 12 日～27 日	（メール会議）
	第 3 回	11 月 14 日	（東京＆Zoom）
	財務ワーキング	11 月 14 日	（Zoom ミーティング）
	会計監査	令和 6 年 2 月 19 日、21 日～22 日	（東京）
	監事監査	2 月 29 日	（東京＆Zoom）
編集委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 12 月 14 日	（神戸）
研究推進委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 10 月 2 日～5 日	（メール会議）
広報委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 6 月 24 日	（愛知）
	第 2 回	令和 5 年 12 月 14 日	（神戸）
企画教育委員会	令和 5 年度 第 2 回	令和 5 年 8 月 10 日	（Zoom ミーティング）
	令和 6 年度 第 1 回	2 月 14 日	（　〃　）
次世代の会			（メール審議）
賞等選考委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 10 月 24 日	（Zoom ミーティング）
年会学術企画委員会	令和 5 年度 第 2 回	令和 5 年 5 月 8 日	（Zoom ミーティング）
	令和 6 年度 第 1 回	令和 6 年 1 月 12 日	（　〃　）
江橋賞選考委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 10 月 23 日	（Zoom ミーティング）
国際対応委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 10 月 28 日～30 日	（メール審議）
将来構想委員会	令和 5 年度 第 2 回	令和 5 年 6 月 5 日	（Zoom ミーティング）
	第 3 回	10 月 3 日	（　〃　）
ＤＸ推進委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 6 月 7 日～12 日	（メール審議）
	第 2 回	12 月 14 日	（神戸）
百周年準備委員会	令和 5 年度 第 1 回	令和 5 年 3 月 7 日	（Zoom ミーティング）
	第 2 回	12 月 4 日	（　〃　）

7．会員状況（令和 5 年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 （正会員に含む）	名誉会員	永年会員	正 会 員		総　　数
			学術評議員	一般会員	
１３８	１３２	１２６	１，１５９	２，２７３	３，６９０
－１	＋１	＋６	－１８	－１０４	－１１５

新入会者数：346 名，退会者数：461 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

令和 4 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない.

Ⅱ．令和５年度決算報告

独立監査人の監査報告書

令和６年２月 29 日

公益社団法人日本薬理学会
　理事長　赤羽　悟美　殿

中村公認会計士事務所
公認会計士　　中村　友理香

＜財務諸表等監査＞
監査意見
　私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本薬理学会の令和５年１月１日から令和５年 12 月 31 日までの令和５年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－５(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。
　私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠
　私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容
　その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。
　私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。
　財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。
　私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。
　その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任
　理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。
　財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。
　監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任
　監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務

諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

＜財産目録に対する意見＞

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本薬理学会の令和 5 年 12 月 31 日現在の令和 5 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監 査 報 告 書

公益社団法人日本薬理学会
　理事長　赤羽　悟美　殿

令和 6 年 2 月 29 日
公益社団法人日 本 薬 理 学 会
監事　　上園　保仁
監事　　原　　英彰

私たちは，令和 5 年 1 月 1 日から令和 5 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い，次のとおり報告する．

１　監査の方法の概要

(1)　会計監査について，帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて，財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した．

(2)　業務監査について，理事会及びその他の会議に出席し，理事から業務の報告を聴取し，関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した．

２　監査意見

(1)　貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録及び収支計算書は，会計帳簿の記載金額と一致し，法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める．

(2)　事業報告書の内容は，真実であると認める．

(3)　理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める．

貸借対照表

令和5年12月31日現在

（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　　金	166,744	70,668	96,076
預 貯 金	94,858,567	122,674,219	△ 27,815,652
未収入金	17,256,476	16,526,909	729,567
前 払 金	1,993,004	2,924,675	△ 931,671
仮 払 金	134,939	0	134,939
貯 蔵 品	364,802	485,240	△ 120,438
流動資産合計	114,774,532	142,681,711	△ 27,907,179
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	11,632,338	11,632,338	0
振興基金			
学術講演基金	14,117,149	14,117,149	0
刊行基金	15,782,824	15,782,824	0
褒賞基金	12,004,589	12,004,589	0
PYJ基金	1,680,000	1,680,000	0
部会運営資産	0	90,000	△ 90,000
百周年記念積立資産	9,000,000	8,000,000	1,000,000
特定資産合計	114,216,900	113,306,900	910,000
(2) その他固定資産			
構築物	842,573	893,698	△ 51,125
ソフトウェア	878,809	1,541,549	△ 662,740
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
その他固定資産合計	3,293,384	4,007,249	△ 713,865
固定資産合計	117,510,284	117,314,149	196,135
資 産 合 計	232,284,816	259,995,860	△ 27,711,044
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
仮 受 金	0	18,680,847	△ 18,680,847
前 受 金	141,000	344,000	△ 203,000
未 払 金	42,247,178	53,595,886	△ 11,348,708
預 り 金	1,007,571	1,430,550	△ 422,979
流動負債合計	43,395,749	74,051,283	△ 30,655,534
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	43,395,749	74,051,283	△ 30,655,534
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取寄付金	4,680,000	4,770,000	△ 90,000
指定正味財産合計	4,680,000	4,770,000	△ 90,000
(うち特定資産への充当額)	(4,680,000)	(4,770,000)	(△90,000)
2. 一般正味財産	184,209,067	181,174,577	3,034,490
(うち特定資産への充当額)	(109,536,900)	(108,536,900)	(1,000,000)
正味財産合計	188,889,067	185,944,577	2,944,490
負債及び正味財産合計	232,284,816	259,995,860	△ 27,711,044

正味財産増減計算書

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで　　（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
① 特定資産運用益	312,329	312,329	0
特定資産利息	312,329	312,329	0
② 受取会費	39,259,720	41,138,000	△ 1,878,280
一般会員会費	15,801,000	16,518,000	△ 717,000
学術評議員会費	17,009,000	17,570,000	△ 561,000
賛助会員会費	6,449,720	7,050,000	△ 600,280
③ 事業収益	54,539,697	76,499,858	△ 21,960,161
学術集会費収益	44,609,571	66,144,750	△ 21,535,179
購読料収益	701,880	459,300	242,580
論文掲載料収益	6,404,246	6,763,052	△ 358,806
論文別刷料収益	1,440,640	2,309,296	△ 868,656
広告掲載料収益	1,383,360	823,460	559,900
④ 薬理学エデュケーター申請収益	255,000	285,000	△ 30,000
申請料収益	255,000	285,000	△ 30,000
⑤ 受取補助金等	10,760,000	11,871,033	△ 1,111,033
学術集会補助金	10,760,000	5,371,033	5,388,967
指定正味財産からの振替額	0	6,500,000	△ 6,500,000
⑥ 受取寄付金	8,272,000	19,329,500	△ 11,057,500
一般寄付金	40,000	300,000	△ 260,000
学術集会賛助金	8,142,000	18,249,500	△ 10,107,500
指定正味財産からの振替額	90,000	780,000	△ 690,000
⑥ 雑 収 益	577,682	44,502	533,180
受取利息	1,780	1,792	△ 12
雑 収 益	575,902	42,710	533,192
経常収益計	113,976,428	149,480,222	△ 35,503,794
(2)経常費用			
① 事 業 費	97,431,252	152,407,075	△ 54,975,823
給与手当	7,929,983	4,900,735	3,029,248
法定福利費	1,310,347	946,638	363,709
中退共掛金	152,000	96,000	56,000
事務所借料	2,164,176	2,164,176	0
会 場 費	13,911,301	65,163,097	△ 51,251,796
旅費・通信交通費	3,299,537	4,321,400	△ 1,021,863
印 刷 費	2,934,671	4,425,698	△ 1,491,027
会 議 費	1,328,800	5,238,995	△ 3,910,195
謝金・その他	12,614,472	14,960,123	△ 2,345,651
懇親会費	1,181,181	293,650	887,531
編集・刊行費	14,273,448	14,446,460	△ 173,012
国際情報発信強化費	6,500,000	6,500,000	0
学術事業協力費	528,730	351,650	177,080
副　賞	1,242,202	1,160,940	81,262
消耗品費	23,963	73,150	△ 49,187
業務委託費	26,113,051	25,485,978	627,073
租税公課	1,260,650	700,000	560,650
減価償却費	662,740	1,178,385	△ 515,645

科　目	当年度	前年度	増　減
② 管　理　費	13,510,686	15,895,717	△ 2,385,031
給与手当	1,982,496	3,845,835	△ 1,863,339
法定福利費	327,584	236,659	90,925
中退共掛金	38,000	24,000	14,000
事務所借料	927,504	927,504	0
旅費･通信交通費	806,966	1,129,896	△ 322,930
印　刷　費	348,935	180,400	168,535
会　議　費	883,702	703,462	180,240
リース料	364,056	265,640	98,416
消耗品費	917,901	1,429,783	△ 511,882
支払手数料	1,222,534	2,006,572	△ 784,038
慶弔費	272,900	399,201	△ 126,301
業務委託費	5,136,033	4,147,510	988,523
租税公課	10,000	13,200	△ 3,200
減価償却費	51,125	328,962	△ 277,837
選　挙　費	0	103,480	△ 103,480
雑　　費	220,950	153,613	67,337
経常費用計	110,941,938	168,302,792	△ 57,360,854
評価損益等調整前当期経常増減額	3,034,490	△ 18,822,570	21,857,060
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,034,490	△ 18,822,570	21,857,060
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
受取給付金	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,034,490	△ 18,822,570	21,857,060
一般正味財産期首残高	181,174,577	199,997,147	△ 18,822,570
一般正味財産期末残高	184,209,067	181,174,577	3,034,490
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金	0	6,500,000	△ 6,500,000
受取寄付金	0	1,770,000	△ 1,770,000
一般正味財産への振替額	△ 90,000	△ 7,280,000	7,190,000
当期指定正味財産増減額	△ 90,000	990,000	△ 1,080,000
指定正味財産期首残高	4,770,000	3,780,000	990,000
指定正味財産期末残高	4,680,000	4,770,000	△ 90,000
Ⅲ 正味財産期末残高	188,889,067	185,944,577	2,944,490

正味財産増減計算書内訳表

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

（単位：円）

	公益目的事業会計						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共 通	小 計	認 定			
Ⅰ 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
特定資産運用益						156,165		156,164		312,329
特定資産利息					156,165	156,165		156,164		312,329
受取会費						19,629,860		19,629,860		39,259,720
一般会員会費					7,900,500	7,900,500		7,900,500		15,801,000
学術評議員会費					8,504,500	8,504,500		8,504,500		17,009,000
賛助会員会費					3,224,860	3,224,860		3,224,860		6,449,720
事業収益						54,539,697			0	54,539,697
学術集会費収益	44,609,571					44,609,571				44,609,571
購読料収益		701,880				701,880				701,880
論文掲載料収益	2,154,000	4,250,246				6,404,246				6,404,246
論文別刷料収益	4,300	1,436,340				1,440,640				1,440,640
広告掲載料収益	275,000	1,108,360				1,383,360				1,383,360
薬理学エデュケーター申請収益							255,000			255,000
申請料収益							255,000			255,000
受取補助金等						10,760,000				10,760,000
学術集会補助金	4,260,000	6,500,000				10,760,000				10,760,000
受取寄付金						8,272,000		0	0	8,272,000
一般寄付金					40,000	40,000				40,000
学術集会賛助金	8,142,000					8,142,000				8,142,000
指定正味財産からの振替額	90,000					90,000				90,000
雑収益						576,082	0	1,600	0	577,682
受取利息	179	1				180		1,600		1,780
雑収益	575,902					575,902		0		575,902
経常収益計	60,110,952	13,996,827	0	0	19,826,025	93,933,804	255,000	19,787,624	0	113,976,428
(2)経常費用										
事業費										
給料手当	5,947,487	495,624	495,624	495,624		7,434,359	495,624			7,929,983
法定福利費	982,759	81,897	81,897	81,897		1,228,450	81,897			1,310,347
中退共掛金	114,000	9,500	9,500	9,500		142,500	9,500			152,000
事務所借料	1,236,672	309,168	309,168	154,584		2,009,592	154,584			2,164,176
会場費	13,911,301					13,911,301				13,911,301
旅費・通信交通費	3,279,117	20,420				3,299,537				3,299,537
印刷費	2,934,671					2,934,671				2,934,671
会議費	1,328,800					1,328,800				1,328,800
謝金・その他	12,168,992		445,480			12,614,472				12,614,472
懇親会費	1,181,181					1,181,181				1,181,181
編集・刊行費		14,273,448				14,273,448				14,273,448
国際情報発信強化費		6,500,000				6,500,000				6,500,000
学術事業協力費				528,730		528,730				528,730
副 賞	80,000		1,162,202			1,242,202				1,242,202
消耗品費	23,963					23,963				23,963
業務委託費	24,722,514	202,491	102,682	102,682		25,130,369	982,682			26,113,051
租税公課	1,260,650					1,260,650				1,260,650
減価償却費	307,440					307,440	355,300			662,740
事業費計	69,479,547	21,892,548	2,606,553	1,373,017	0	95,351,665	2,079,587	0	0	97,431,252
管理費										
給料手当								1,982,496		1,982,496
法定福利費								327,584		327,584
中退共掛金								38,000		38,000
事務所借料								927,504		927,504
旅費・通信交通費								806,966		806,966
印刷費								348,935		348,935
会議費								883,702		883,702
リース料								364,056		364,056
消耗品費								917,901		917,901
支払手数料								1,222,534		1,222,534
慶弔費								272,900		272,900
業務委託費								5,136,033		5,136,033
租税公課								10,000		10,000
減価償却費								51,125		51,125
雑 費								220,950		220,950
管理費計								13,510,686	0	13,510,686
経常費用計	69,479,547	21,892,548	2,606,553	1,373,017	0	95,351,665	2,079,587	13,510,686	0	110,941,938
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 9,368,595	△ 7,895,721	△ 2,606,553	△ 1,373,017	19,826,025	△ 1,417,861	△ 1,824,587	6,276,938	0	3,034,490
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 9,368,595	△ 7,895,721	△ 2,606,553	△ 1,373,017	19,826,025	△ 1,417,861	△ 1,824,587	6,276,938	0	3,034,490
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 9,368,595	△ 7,895,721	△ 2,606,553	△ 1,373,017	19,826,025	△ 1,417,861	△ 1,824,587	6,276,938	0	3,034,490
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 9,368,595	△ 7,895,721	△ 2,606,553	△ 1,373,017	19,826,025	△ 1,417,861	△ 1,824,587	6,276,938	0	3,034,490
一般正味財産期首残高						52,014,191	1,908,911	127,251,475	0	181,174,577
一般正味財産期末残高						50,596,330	84,324	133,528,413	0	184,209,067
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0		0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 90,000		0	0	0	△ 90,000	0	0	0	△ 90,000
当期指定正味財産増減額	△ 90,000	0	0	0	0	△ 90,000	0	0	0	△ 90,000
指定正味財産期首残高	1,770,000	0	0	0	0	1,770,000	0	3,000,000	0	4,770,000
指定正味財産期末残高	1,680,000	0	0	0	0	1,680,000	0	3,000,000	0	4,680,000
Ⅲ 正味財産期末残高	1,680,000	0	0	0	0	52,276,330	84,324	136,528,413	0	188,889,067

財務諸表に対する注記

1.重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については，原価法によっている.

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

既刊紙は1冊を1円として評価している.

メダルは最終仕入による原価法.

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による.

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込方式によっている.

2.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである.

特定資産 (単位:円)

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	50,000,000	0	0	50,000,000
国際基金	11,632,338	0	0	11,632,338
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	0	0	14,117,149
刊行基金	15,782,824	0	0	15,782,824
褒賞基金	12,004,589	0	0	12,004,589
PYJ基金	1,680,000	0	0	1,680,000
部会運営資産	90,000	0	90,000	0
百周年記念積立資産	8,000,000	1,000,000	0	9,000,000
合　　計	113,306,900	1,000,000	90,000	114,216,900

3.基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである.

特定資産 (単位:円)

科　　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
薬理学基金	50,000,000	－	(50,000,000)	－
国際基金	11,632,338	－	(11,632,338)	－
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	－	(14,117,149)	－
刊行基金	15,782,824	－	(15,782,824)	－
褒賞基金	12,004,589	－	(12,004,589)	－
PYJ基金	1,680,000	(1,680,000)	－	－
百周年記念積立資産	9,000,000	(3,000,000)	(6,000,000)	
合　　計	114,216,900	(4,680,000)	(109,536,900)	(　－　)

4.固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高は，次のとおりである.

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
構築物	920,260	77,687	842,573
ソフトウエア	6,377,300	5,498,491	878,809
合　　計	7,297,560	5,576,178	1,721,382

5.満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益は，次のとおりである.

（単位:円）

種類及び銘柄	帳簿価額	時　価	評価損益
社債・第10回みずほフィナンシャルグループ社債	30,296,100	29,797,500	△ 498,600
社債・三井トラストHD㈱第3回無担保社債	30,523,200	29,907,000	△ 616,200
合　　計	60,819,300	59,704,500	△ 1,114,800

6.補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高は，次のとおりである.

（単位:円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	0	6,500,000	6,500,000	0	
研究成果公開発表補助金（第97回年会市民公開講座）	日本学術振興会	0	1,200,000	1,200,000	0	
内藤記念財団海外学会招聘助成金（第97回年会）	(公財)内藤記念科学振興財団	0	500,000	500,000	0	
市民公開講座補助金（第97回年会）	（社）日本耳鼻咽喉科学会	0	100,000	100,000	0	
神戸コンベンションビューロー助成金（第97回年会）	(公財)神戸コンベンション・ビューロー	0	960,000	960,000	0	
日本医学会連合連携フォーラム補助金（第97回年会）	日本医学会連合	0	300,000	300,000	0	
部会開催賛助金（第147回関東部会）	ナカライテイスク㈱	0	30,000	30,000	0	
部会開催賛助金（第143回近畿部会）	ベーシックバイオ合同会社	0	10,000	10,000	0	
部会開催賛助金（第143回近畿部会）	㈱メディック	0	10,000	10,000	0	
部会開催助成金（第143回近畿会）	（公財）大幸財団	0	100,000	100,000	0	
ランチョンセミナー共催費（第2回DPC）	NTTコミュニケーション（昭）	0	700,000	700,000	0	
スポンサードセミナー共催費（第2回DPC）	Remedy & Company	0	350,000	350,000	0	
合　　計		0	10,760,000	10,760,000	0	

7.指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は，次のとおりである.

（単位:円）

内　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除（受取寄付金）	△ 90,000
合計	△ 90,000

８.資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき，オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが，当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく，当面事務局を移転する予定もないことから，資産除却債務を合理的に見積もることができない．そのため，当該債務に見合う資産除却債務を計上していない．

附 属 明 細 書

１．基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記２．に記載のとおりである．

２．引当金の明細

該当なし．

財 産 目 録

令和5年12月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
（流動資産）	現　　金	手元保管	運転資金として	166,744
	預　貯　金	普通預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	18,745,994
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	19,473,167
		ゆうちょ銀行定期貯金	運転資金として	13,000,000
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	15,394,772
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	12,514,556
		第97回年会口座	運転資金として	15,730,078
			＜現金・預貯金計＞	**95,025,311**
	未 収 入 金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	2,909,091
		学術評議員会費（79名分）	規則で定められた会員の要支払会費額である	1,420,000
		和文誌購読料	刊行事業の未収分である	687,150
		論文別刷料	同　上	213,505
		ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ売上金	既刊雑誌の売上未収分である	14,730
		学術集会広告料	学術集会広告料の未収分等である	33,000
		その他未収入金	第97回年会展示収入	11,979,000
			＜未収入金計＞	**17,256,476**
	前　払　金	その他前払金	学術集会前払分	93,004
		第98回年会	学術集会開催準備金である	1,900,000
			＜前払金計＞	**1,993,004**
	仮　払　金		第97回年会時薬理学振興助成事業等	134,939
			＜仮払金計＞	**134,939**
	貯　蔵　品	既刊誌（2022，2023年）	既刊雑誌の在庫数である	3,414
		メダル	江橋賞メダル在庫　3個	361,388
			＜貯蔵品計＞	**364,802**
流動資産合計				**114,774,532**
（固定資産）	薬理学基金	定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している（うち公益目的保有財産50%）	40,000,000
特定資産		定期預金・みずほ銀行本郷支店		10,000,000
			＜薬理学基金計＞	**50,000,000**
	国際基金	投資有価証券	海外の学会との連携事業の原資である（公益目的保有財産）	11,632,338
			＜国際基金計＞	**11,632,338**
	振興基金			
	学術講演基金	投資有価証券	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座，及び次世代薬理学セミナー開催事業等の原資である(公益目的保有財産)	14,117,149
			＜学術講演基金計＞	**14,117,149**
	刊行基金	投資有価証券	刊行事業，薬理学に関する研究及び調査事業の原資である（公益目的保有財産）	15,782,824
			＜刊行基金計＞	**15,782,824**
	褒賞基金	投資有価証券	研究業績を表彰する事業の原資である（公益目的保有財産）	12,004,589
			＜褒賞基金計＞	**12,004,589**
	PYJ基金	ゆうちょ銀行通常貯金	年会及び部会の特別企画用の寄附金	1,680,000
			＜PYJ基金＞	**1,680,000**
	百周年記念積立資産	投資有価証券	百周年記念事業の積立金である（特定費用準備資金）	7,282,400
		ゆうちょ銀行通常貯金		1,717,600
			＜百周年記念積立資産＞	**9,000,000**
			＜特定資産合計＞	**114,216,900**

その他固定資産	構築物	事務局建具	事務局建具の増設分である	842,573
	ソフトウェア	会員管理システム	公益目的事業及び管理目的に使用している	878,809
			うち公益目的事業に使用	0
			うちその他の事業に使用	878,809
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり，公益目的事業に使用している	2
	保証金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
			うち公益目的保有財産25%	393,000
			うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000
			＜その他固定資産計＞	**3,293,384**
固定資産合計				117,510,284
資産合計				**232,284,816**
(流動負債)	前受金	2024年一般会員会費(**4**名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度の会費である.	24,000
		2024年学術評議員会費(**3**名分)		45,000
		部会広告費等	部会広告費等である	72,000
			＜前受金計＞	**141,000**
	未払金	給与等	職員の給与等である	342,163
		社会保険料	事業主負担分である	165,240
		代理店委託費	学会誌の代理店委託費である	367,515
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費等である	5,115,518
		その他未払金	97回年会及び薬理学振興助成事業等の未払分である	35,095,012
		消費税	当年度未払消費税である	1,161,730
			＜未払金計＞	**42,247,178**
	預り金	職員他源泉税	職員給与等の源泉所得税である	176,513
		職員社会保険料等	職員から預かった社会保険料等である	125,268
		新入会員会費等		574,790
		部会参加費等	第144回近畿部会参加費等である	131,000
			＜預り金計＞	**1,007,571**
流動負債合計				**43,395,749**
(固定負債)				**0**
固定負債合計				**0**
負債合計				**43,395,749**
正味財産				**188,889,067**

Ⅲ. 令和６年度事業計画

ポストコロナの薬理学研究は、多様性と統合力を増し新たなステージへと扉を開きつつあります。

日本薬理学会は，薬理学会会員の旺盛な学術活動の場を提供するべく，今期の活動目標として「Diversity・Integration・Sustainability」を掲げ、実行いたします.

1. Diversity
   - 日本薬理学会の学術活動を活性化するために，学術団体（日本医学会・日本医学会連合・生物科学学会連合・日本脳科学関連学会連合・日本学術会議 等）の活動を通じて他学会との学術交流を推進し，刺激的で活気あふれる学術活動の場を提供いたします.
   - 世界における日本薬理学会の役割を認識し，IUPHAR（International Union of Basic and Clinical Pharmacology）をはじめ世界各国の薬理学会との国際的連携を発展させてまいります．若手研究者に国際的連携活動に関わる機会と活躍の場を提供します.
2. Integration
   - 日本薬理学会の「知的資産」を継承し，薬理学会会員の学術活動に活用するべく，デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進いたします.
   - 薬理学会年会および各部会における画期的で独創的な学術プログラム企画を支援します.
   - 原著英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」から世界に向けて質の高いサイエンスを発信します．総説和文誌「日本薬理学雑誌」は完全オンライン化を目指し，充実したコンテンツを提供します．産官学の連携を促進するべく，「オープンイノベーション活動」を推進します.
3. Sustainability
   - 次世代を担う薬理学研究者と薬理学教育者に活躍の場を提供し，人材育成に注力いたします.
   - 薬理学会会員がさまざまなライフイベントを通して学会活動を持続し活躍できるよう，支援する取り組みを進めます.
   - 学会活動を支える財政基盤の安定化とサステナブルな事務局運営体制の整備を進めてまいります.

日本薬理学会創立 100 周年に向けて更なる発展を目指して目標を実行する所存でございます.

会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力を賜りますよう，何卒，宜しくお願い申し上げます.

理事長　　赤羽　悟美

１　薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業 1）

(1) 年会の開催

・なし

(2)　地方部会の開催

7 回の地方部会を開催する.

・第 144 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：大野 行弘（大阪医科薬科大学・薬）
　　2024 年 3 月 20 日　大阪医科薬科大学薬学部阿武山キャンパス（大阪府）

・第 150 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：上園 保仁（東京慈恵会医科大学・医）
　　2024 年 6 月 29 日　オンライン開催

・第 145 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：石原 熊寿（広島国際大学・薬）
　　2024 年 7 月 6 日　広島国際大学呉キャンパス（広島県）

・第 75 回 日本薬理学会北部会　　部会長：平　英一（岩手医科大学・医）
　　2024 年 9 月 21 日　アイーナいわて県民情報交流センター（岩手県）

・第 151 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：成田　年（星薬科大学・薬）
　　2024 年 10 月 12 日　星薬科大学（東京都）

・第 77 回 日本薬理学会西南部会　　部会長：岩本 隆宏（福岡大学・医）
　　2024 年 11 月 16 日　福岡市美術館（福岡県）

・第 146 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：田中 智之（京都薬科大学・薬）
2024 年 11 月 30 日　京都薬科大学（京都府）

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として地方部会（第 75 回北部会，第 151 回関東部会，第 77 回西南部会）と連動して市民公開講座を開催する予定である．

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化および国際プレゼンスの向上のため，意欲と能力のある若手を育成し，学会活動への積極的な参画を促すため，若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する．Web 配信により全会員が無料で視聴できる．2024 年は第 151 回関東部会および第 75 回北部会に合わせて計 2 回の開催を予定している．

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

会員数の少ない領域（保健学・看護系大学あるいは医療機関における教育研究者や看護識者など）に対し，薬理学会との交流の機会を提供し，同時に本会の若手会員のキャリア開発を支援することにより，薬理学教育・研究の益々の発展に資する企画として地方部会と協力し，看護薬理学カンファレンスを開催する．

第 150 回関東部会および第 12 回看護理工学会学術集会に合わせて 2 回，公開セミナー等に合わせて 2 回，計 4 回の開催を予定している．

(6) 新薬理学セミナー2024 の開催

・将来の薬理学分野の活性化や広がりに貢献できる Digital Pharmacology Conference (DPC)のコンセプトの更なる発展を目指して，シン・薬理学セミナー2024　第 3 回 "Digital Pharmacology Conference (DPC)"を第 151 回関東部会時に開催する．

2　薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし，学会誌等を刊行する事業（公益目的事業 2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する．

・2024 年刊行予定：154 巻 1～4 号，155 巻 1～4 号，156 巻 1～4 号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

・2024 年刊行予定：159 巻 1～6 号　計 6 冊（159 巻 3 号（2024 年 5 月号）より完全オンラインジャーナル化）

3　優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために，各賞を設置し，研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業 3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため，江橋節郎賞を創設し，薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している．第 17 回選考は「基礎」の研究領域で，推薦を受け付けた．

・第 17 回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は，第 144 回近畿部会会期中（2024 年 3 月 20 日）に行われる．

上田 泰己（東京大学・院医・教授）
『哺乳類睡眠・覚醒リズムのシステムレベルの理解』

・第 18 回江橋節郎賞は 5 月末日までに「トランスレーショナルリサーチ・応用」の領域での募集を公告し，推薦締切は 8 月末日，江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する．

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する．

・第 39 回学術奨励賞受賞者 3 名の受賞講演は，第 144 回近畿部会会期中（2024 年 3 月 20 日）に行われる．

鈴木 良明（名古屋市立大学・院薬・講師）
『カルシウムマイクロドメインによる血管機能制御機構の解明』
永安 一樹（京都大学・院薬・助教）
『情動抑制およびストレス抵抗性におけるセロトニン神経の役割に関する研究』
矢吹 悌（熊本大学・医・准教授）
『プリオン性タンパク質凝集機構の解明と創薬応用に関する薬理学的研究』

・第 40 回学術奨励賞は 5 月末日までに募集を公告し，推薦の締切は 8 月末日，賞等選考委員会の選考を経た 3 件以内の候補者について理事会で決定する．

(3) JPS 優秀論文賞

JPS 優秀論文賞は，過去 3 年間に JPS に掲載された論文の中から選出されてきたが，2022 年度以降は，授賞年度の前年 1 年間に JPS に掲載された原著論文の中から選考し，その著者に授与することを決定した.

・第 28 回 JPS 優秀論文賞受賞者および第 29 回 JPS 優秀論文賞受賞者に賞状と副賞を授与する.

・第 30 回 JPS 優秀論文賞 3 編以内を決定する.

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会は非開催のため，選出・授与なし.

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で 5 名以内に JPS 優秀査読者賞を授与する.

4　薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした，内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業 4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体として国内外の学術団体との連携を推進する.

(2) 日本医学会および日本医学会連合との連携

日本医学会および日本医学会連合の加盟学会として他学会と連携して医学・生命科学研究の推進と医学の発展に貢献する.

(3) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために，定例会議に出席する．連合の一員として，行政等への提言，働きかけを行う.

(4) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として，脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する.

(5) 国内の関連学術団体と連携して年会で共催シンポジウム等を開催する.

(6) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する.

(7) JPS-ASPET 講師交換プログラム

ASPET2024 Annual Meeting（2024 年 5 月 16～19 日，アリストン）に講師派遣予定

(8) NC-IUPHAR 委員派遣(パリあるいはエディンバラ)

(9) 国際対応アソシエイツ運営と交流会

(10)運営および若手の参加支援

第 25 回日韓薬理学合同セミナー（韓国）および 15th APFP（オーストラリア・メルボルン）

5　薬理学エデュケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し，薬理学の知識の普及および研究水準向上への貢献を目的として，薬理学エデュケーター認定事業を行っている．毎年，6 月 1 日から 30 日まで申請を受け付ける.

6　その他

1　会　員

・2023 年度末の会員数は 2022 年度末の会員数 3,805 名から若干，減少する見込みである.

2　業務執行体制について

・代表理事，業務執行理事，年会長，事務局で定期的にミーティングを開催し，事業の円滑な運営，理事会の業務執行に協力する.

3　社会に向けて

・科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうため，公開講座をとおして啓発活動を行う.

・倫理委員会規定を制定し，科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる.

4　事務局体制について

・常勤 1 名，嘱託職員 1 名（任期：2024 年 3 月 31 日），一部業務委託（株式会社エー・イー企画）による事務局新体制が発足し，業務の引継ぎを進めている.

・職員の健康と生活を守るために「新型コロナウイルス対策に係る申合せ」を策定し，在宅勤務の環境を整備した.

Ⅳ．令和6年度収支予算

令和6年度収支予算

令和6年1月1日から令和6年年12月31日まで

（単位：円）

	2024年度予算額	2023年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ．一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1)　経常収益				
①　特定資産運用益	(393,000)	(393,000)	(0)	
基金運用益	393,000	393,000	0	
②　受取会費	(37,620,000)	(40,550,000)	(△ 2,930,000)	
1　一般会員会費	15,120,000	16,500,000	△ 1,380,000	
2　学術評議員会費	16,500,000	17,000,000	△ 500,000	
3　賛助会員会費	6,000,000	7,050,000	△ 1,050,000	
③　事業収益	(13,660,000)	(50,892,800)	(△ 37,232,800)	
1　学術集会費収益	(8,495,000)	(43,507,800)	(△ 35,012,800)	
参加登録費	5,185,000	19,868,000	△ 14,683,000	
器械展示料・予稿集広告料	1,220,000	11,174,800	△ 9,954,800	
懇親会費	2,090,000	2,345,000	△ 255,000	
ランチョンセミナー	0	10,120,000	△ 10,120,000	
2　購読料	(85,000)	(455,000)	(△ 370,000)	
3　論文掲載料	(3,540,000)	(5,340,000)	(△ 1,800,000)	
4　論文別刷料	(740,000)	(740,000)	(0)	
5　広告掲載料	(800,000)	(850,000)	(△ 50,000)	
④　薬理学ｴﾃﾞｭｹｰﾀｰ申請	(2,300,000)	(300,000)	(2,000,000)	
申請料収益	2,300,000	300,000	2,000,000	
⑤　受取補助金等	(6,500,000)	(12,150,000)	(△ 5,650,000)	
1　法人会計からの振替額	6,500,000	6,500,000	0	
2　学術集会補助金		5,650,000	△ 5,650,000	
⑥　受取寄付金	(800,000)	(4,822,275)	(△ 4,022,275)	
1　指定正味財産からの振替額	0	0	0	
2　学術集会賛助金	800,000	4,822,275	△ 4,022,275	
⑦　雑収益	(1,400)	(1,400)	(0)	
受取利息等	1,400	1,400	0	
経常収益計	**61,274,400**	**109,109,475**	**△ 47,835,075**	
(2) 経常費用				
①　事業費	(49,924,766)	(102,685,593)	(△ 52,760,827)	
給料手当	2,550,000	3,862,352	△ 1,312,352	
法定福利費	800,000	1,440,000	△ 640,000	
中退共掛金	96,000	160,000	△ 64,000	
事務所借料	2,164,176	2,164,176	0	
会場費	4,874,260	34,829,255	△ 29,954,995	
旅費・通信交通費	4,450,000	6,679,653	△ 2,229,653	
印刷費	3,801,000	7,972,982	△ 4,171,982	
会議費	1,426,000	5,602,140	△ 4,176,140	
謝金・その他	5,150,590	8,804,575	△ 3,653,985	
懇親会費	2,090,000	3,152,265	△ 1,062,265	
編集刊行費	12,500,000	12,500,000	0	
国際情報発信強化費	6,500,000	6,500,000	0	
学術事業協力費	510,000	360,000	150,000	
副　賞	1,250,000	1,250,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	
業務委託費	1,000,000	6,245,455	△ 5,245,455	
租税公課	0	400,000	△ 400,000	
減価償却費	662,740	662,740	0	

（単位：円）

	2024年度予算額	2023年度予算額	増　減	備　考
②　管理費	（　23,781,504）	（　18,939,781）	（　4,841,723）	
給料手当	4,450,000	8,137,648	△ 3,687,648	
法定福利費	200,000	360,000	△ 160,000	
中退共掛金	24,000	40,000	△ 16,000	
事務所借料	927,504	927,504	0	
旅費・通信交通費	1,800,000	2,000,000	△ 200,000	
印刷費	300,000	300,000	0	
会議費	700,000	700,000	0	
リース料	400,000	348,504	51,496	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	2,000,000	2,000,000	0	
慶弔費	500,000	500,000	0	
業務委託費	11,000,000	2,355,000	8,645,000	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	60,000	51,125	8,875	
選挙費	200,000	0	200,000	
雑　費	200,000	200,000	0	
経常費用計	**73,706,270**	**121,625,374**	**△ 47,919,104**	
評価損益等調整前当期経常増減額	**△ 12,431,870**	**△ 12,515,899**	**84,029**	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 12,431,870	△ 12,515,899	84,029	
2．　経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 12,431,870	△ 12,515,899	84,029	
一般正味財産期首残高	158,429,349	170,945,248	△ 12,515,899	
一般正味財産期末残高	**145,997,479**	**158,429,349**	**△ 12,431,870**	
Ⅱ　指定正味財産増減の部			0	
①　受取補助金				
受取補助金	6,500,000	6,500,000	0	
② 受取寄付金				
受取寄付金	0	0	0	
③ 一般正味財産への振替額	△ 6,500,000	△ 7,890,000	1,390,000	
一般正味財産への振替額	△ 6,500,000	△ 7,890,000	1,390,000	
当期指定正味財産増減額		△ 1,390,000	1,390,000	
指定正味財産期首残高		1,390,000	△ 1,390,000	
指定正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	
Ⅲ　正味財産期末残高	**145,997,479**	**158,429,349**	**△ 12,431,870**	

令和6年度収支予算書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

（単位：円）

	公益目的事業会計（内訳表）						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合　計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計	他1 エデュケーター			
Ⅰ一般正味財産増減の部										
１．経常増減の部										
(1)経常収益										
①　特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**196,500**	**196,500**	**0**	**196,500**	**0**	**393,000**
基金運用益					196,500	196,500		196,500		393,000
②　受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**18,810,000**	**18,810,000**	**0**	**18,810,000**	**0**	**37,620,000**
1　一般会員会費	0				7,560,000	7,560,000		7,560,000		15,120,000
2　学術評議員会費	0				8,250,000	8,250,000		8,250,000		16,500,000
3　賛助会員会費	0				3,000,000	3,000,000		3,000,000		6,000,000
③　事業収益	**9,635,000**	**4,025,000**	**0**	**0**	**0**	**13,660,000**	**0**	**0**	**0**	**13,660,000**
1　学術集会費収益	8,495,000	0	0	0	0	8,495,000	0	0	0	8,495,000
参加登録費	5,185,000					5,185,000				5,185,000
器械展示料	1,220,000					1,220,000				1,220,000
予稿集広告料										
懇親会費	2,090,000					2,090,000				2,090,000
ランチョンセミナー	0					0				0
2　購読料	0	85,000	0	0	0	85,000	0	0	0	85,000
購読料	0	80,000				80,000				80,000
バックナンバー売上金	0	5,000				5,000				5,000
3　論文掲載料	1,140,000	2,400,000	0	0	0	3,540,000	0	0	0	3,540,000
和文掲載料	0	2,400,000				2,400,000				2,400,000
演題登録料	1,140,000	0				1,140,000				1,140,000
4　論文別刷料	0	740,000	0	0	0	740,000	0	0	0	740,000
別刷料		140,000				140,000				140,000
著作権等使用料		600,000				600,000				600,000
5　広告掲載料	0	800,000	0	0	0	800,000	0	0	0	800,000
広告掲載料		800,000				800,000				800,000
④　薬理学エデュケーター申請	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2,300,000**	**0**	**0**	**2,300,000**
申請料収益	0	0				0	2,300,000			2,300,000
⑤　受取補助金等	**0**	**6,500,000**	**0**	**0**	**0**	**6,500,000**	**0**	**0**	**0**	**6,500,000**
1　学術集会補助金	0	0				0				0
2　法人会計からの振替	0	6,500,000				6,500,000				6,500,000
⑥　受取寄付金	**800,000**	**0**	**0**	**0**	**0**	**800,000**	**0**	**0**	**0**	**800,000**
学術集会賛助金	800,000	0				800,000				800,000
⑦　雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**700**	**700**	**0**	**700**	**0**	**1,400**
受取利息	0	0			700	700		700		1,400
雑収入	0					0				0
経常収益計	**10,435,000**	**10,525,000**	**0**	**0**	**19,007,200**	**39,967,200**	**2,300,000**	**19,007,200**	**0**	**61,274,400**
(2)経常費用										
①　事業費	**18,842,440**	**20,000,000**	**1,956,850**	**1,970,000**	**780,000**	**43,549,290**	**765,300**	**5,610,176**	**0**	**49,924,766**
1　給料手当								2,550,000		2,550,000
2　法定福利費								800,000		800,000
3　中退共掛金								96,000		96,000
4　事務所借料								2,164,176		2,164,176
5　会場費	4,774,260	100,000				4,874,260				4,874,260
6　旅費・通信交通費	2,240,000	200,000		1,300,000	700,000	4,440,000	10,000			4,450,000
7　印刷費	3,721,000	0			80,000	3,801,000				3,801,000
8　会議費	1,076,000	200,000	150,000			1,426,000				1,426,000
9　謝金・その他	4,033,740	0	556,850	160,000		4,750,590	400,000			5,150,590
10　懇親会費	2,090,000	0				2,090,000				2,090,000
11　編集刊行費	0	12,500,000				12,500,000				12,500,000

（単位：円）

	公益目的事業会計（内訳表）						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合　計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計	他1 エデュケーター			
12　国際情報発信強化費	0	6,500,000				6,500,000				6,500,000
13　学術事業協力費	0	0		510,000		510,000				510,000
14　副　賞	0	0	1,250,000			1,250,000				1,250,000
15　消耗品費	0	100,000				100,000				100,000
16　業務委託費	600,000	400,000				1,000,000				1,000,000
17　租税公課	0	0				0				0
18　減価償却費	307,440	0				307,440	355,300			662,740
②　管理費	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**23,781,504**	**0**	**23,781,504**
1　給料手当								4,450,000		4,450,000
2　法定福利費								200,000		200,000
3　中退共掛金								24,000		24,000
4　事務所借料								927,504		927,504
5　旅費・通信交通費								1,800,000		1,800,000
6　印刷費								300,000		300,000
7　会議費								700,000		700,000
8　リース料								400,000		400,000
9　消耗品費								1,000,000		1,000,000
10　支払手数料								2,000,000		2,000,000
11　慶弔費								500,000		500,000
12　業務委託費								11,000,000		11,000,000
13　租税公課								20,000		20,000
14　減価償却費								60,000		60,000
15　選挙費								200,000		200,000
16　雑　費								200,000		200,000
経常費用計	**18,842,440**	**20,000,000**	**1,956,850**	**1,970,000**	**780,000**	**43,549,290**	**765,300**	**29,391,680**	**0**	**73,706,270**
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,407,440	△ 9,475,000	△ 1,956,850	△ 1,970,000	18,227,200	△ 3,582,090	1,534,700	△ 10,384,480	0	△ 12,431,870
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常増減額	**△ 8,407,440**	**△ 9,475,000**	**△ 1,956,850**	**△ 1,970,000**	**18,227,200**	**△ 3,582,090**	**1,534,700**	**△ 10,384,480**	**0**	**△ 12,431,870**
2．経常外増減の部						0				0
(1)経常外収益						0				0
中科目別記載						0				0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用						0			0	0
中科目別記載						0				0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前登記一般賃味財産増減額	△ 8,407,440	△ 9,475,000	△ 1,956,850	△ 1,970,000	18,227,200	△ 3,582,090	1,534,700	△ 10,384,480	0	△ 12,431,870
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,407,440	△ 9,475,000	△ 1,956,850	△ 1,970,000	18,227,200	△ 3,582,090	1,534,700	△ 10,384,480	0	△ 12,431,870
一般正味財産期首残高						37,526,199	1,513,342	119,389,808		158,429,349
一般正味財産期末残高	△ 8,407,440	△ 9,475,000	△ 1,956,850	△ 1,970,000	18,227,200	33,944,109	3,048,042	109,005,328	0	145,997,479
Ⅱ　指定正味財産増減の部						0			0	0
受取補助金等		6,500,000				6,500,000			0	6,500,000
受取寄付金		0				0				0
一般正味財産への振替額		△ 6,500,000				△ 6,500,000				△ 6,500,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0		0
Ⅲ　正味財産期末残高	**△ 8,407,440**	**△ 9,475,000**	**△ 1,956,850**	**△ 1,970,000**	**18,227,200**	**△ 3,582,090**	**3,048,042**	**109,005,328**	**0**	**145,997,479**

Ⅴ．名誉会員候補者一覧（令和 6 年度）

理事会は，名誉会員推薦規定第 2 条第 1 項第 1 号 b）及び同運用基準第 2 項第 1 号，第 2 号に該当すると判断し，次の 2 氏を推薦いたします.

令和 6 年 4 月 1 日現在，氏名五十音順

氏名 （所属）	年齢 正会員歴	薬理学への功績	本会の 発展への功績
キッカワ　コウヘイ 吉 川　公 平 （田辺三菱製薬株式会社）	65 歳 43 年	循環薬理を中心とした創薬研究を推進し,PDE5 阻害薬（アバナフィル）などの上市に貢献．薬理学会活動に積極的に参画し，企業企画シンポジウム（年会）などを介して産学連携および人材育成に貢献.	理事　4 年 委員 10 年
タカハシ　ケンゾウ 高 橋　健 三 （大正製薬株式会社）	65 歳 42 年	各種疾患領域における治療薬の研究開発.	理事　3 年 委員　7 年

「名誉会員推薦規定」（抜粋）

（資　格）

第２条 名誉会員として推薦することができる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする.

(1) 本会の正会員として 20 年以上在籍し，年齢 65 才以上の，役員または常置委員在任中ではない者で，かつ次の事項のいずれかに該当する者

a）薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者

b）薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者

(2) 非会員のうち，薬理学における学術上の功績が大であり，かつ特に本会の発展に功績が顕著である者

2　前項第 1 号の正会員歴の算定にあたり，理事会は特別の考慮を払うことができる.

3　第 1 項第 1 号にかかわらず，理事会は特段の審議を行い，学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる.

「名誉会員推薦規定運用基準」（抜粋）

2. 名誉会員推薦規定第２条第１号 b）の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする.

(1) 理事，監事又は年会長を経験した者

(2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算 10 年以上経験した者

3. 名誉会員推薦規定第 2 条第 2 号については，以下のとおりとする.

(1) 「薬理学における学術上の功績が大である者」は，学士院賞に相当する以上の賞の受賞者又は理事会がそれと同等以上の学術上の功績があると認めた者とする.

(2) 「特に本会の発展に功績が顕著である者」は，本会の学術集会で特別講演を行った者，Journal of Pharmacological Sciences に極めて価値のある総説を寄稿した者，Journal of Pharmacological Sciences の Regional Editor として貢献した者，又は理事会がそれらと同等以上の功績があると認めた者とする.

Ⅵ. 永年会員候補者一覧（令和 6 年度）

理事会は，永年会員推薦規定第 2 条 及び 同運用基準第 1 項に該当すると判断し，次の 5 氏を推薦いたします．

令和 6 年 4 月 1 日現在，氏名五十音順

氏名／所属歴	年齢	学術評議員歴	正会員歴	適用運用基準
岸岡　史郎　　宝塚医療大学	70 歳	37 年		第１号
河田　光雄　　興和株式会社	77 歳	－	54 年	第２号
平山　隆士　　杏林製薬株式会社	79 歳	－	53 年	第２号
三宅　雅久　　日本ケミファ株式会社	73 歳	－	50 年	第２号
山下　修司　　元）大塚製薬株式会社	74 歳	－	52 年	第２号

永年会員推薦規定（抜粋）

第２条　永年会員として推薦することができる者は，年齢 70 才以上であり，かつ別に定める永年会員推薦規定運用基準に該当する者とする．

永年会員推薦規定運用基準（抜粋）

1. 永年会員推薦規定第 2 条に基づき，理事会が永年会員に推薦する者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない．

(1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり，かつ，部会長，常置委員会委員，特別委員会委員，Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者

(2) 本会の正会員として 50 年以上在籍した者

Ⅶ. 規則の制定・変更

制　定

Pharmacology Year of Japan 基金運用規定

令和 5 年 8 月 28 日制定

（趣　旨）

第１条　本規定は，公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）の Pharmacology Year of Japan 基金（略称：PYJ 基金，英名：Fund for Pharmacology Year of Japan）（以下「基金」という）の運用について定める．

（目　的）

第２条　基金は，本会定款第 4 条第 1 項に定める事業のうち次に掲げる活動への援助を目的とする．
ただし，本会の他基金等で援助対象とする事業は除く．

(1) 年会や部会で独自に設立した賞や研究助成等の副賞または助成金
(2) その他，理事会が適切と認める学術集会活動への支出

（申　請）

第３条　援助を申請できる者は，年会長，次期年会長，部会長，次期部会長に限る．
2　申請者は，所定の書類一式に必要事項を記載して財務委員長に申請する．

（採否及び支給）

第４条　申請の採否及び支給額は，財務委員会で審議し，理事会で決定する．

（報　告）

第５条　基金の援助を受けた者は，事業が終了した時点で，すみやかにその内容及び経理について理事長に報告しなければならない．

（規定の変更）

第６条　本規定を変更するときは，理事会の承認を得なければならない．

附　則 1. 本規定は令和 5 年 8 月 28 日より施行する．

日本薬理学会将来構想委員会規定

令和 5 年 12 月 13 日制定

第 1 条（設置）

公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）は定款第 41 条に基づき、特別委員会として将来構想委員会（以下「本委員会」という）を設置する。

第 2 条（活動）

本委員会は、本会の発展と成長に向けた戦略的な方針の策定、及び本会の将来的な課題や施策の提言を通じて、本会をより効果的かつ満足度の高いものとする活動を行う。

(1) 本会の将来的な発展に関する課題や施策の提案をまとめ、理事会に提出する。
(2) 学会活動の改善と効率化のための提案を検討し、実行に向けた戦略を策定する。
(3) 広義のダイバーシティに関する取り組みを評価し、必要な改善策を提案する。
(4) その他

第 3 条（構成）

本委員会は、以下の方法に基づいて構成される。委員長及び委員は、原則として理事会においてこれを選出し、理事長が委嘱する。

(1) 総務委員会、財務委員会、研究推進委員会、企画教育委員会、次世代の会から各 1 名ずつ選任される委員
(2) 理事長及び理事会によって指名された 4 名の委員

2　委員の中から委員長を選出する。

第４条（オブザーバー）
理事長、年会長、次期年会長及び本委員会で承認された本会会員は、本委員会にオブザーバーとして出席することができる。

第５条（任期）
委員の任期は、役員任期に合わせた２年を活動単位とし、再任を妨げない。

第６条（本委員会の運営）
委員長は必要に応じて本委員会を開催する。また、委員長は文書をもって委員の意見を徴し、本委員会の開催に代えることができる。
2　本委員会の開催費用は本会の運用財産をもって支弁する。

第７条（議事録の提出）
委員長は議事録を作成し、委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名（電子署名可）の上、これをすみやかに理事長に提出しなければならない。

第８条（存廃）
本委員会の存廃は理事会で決定する。

附　則　本規定は，令和５年 12 月 13 日より施行する。

特定費用準備資金等取扱規則

令和６年３月 19 日制定

第 1 章 総 則
（目 的）
第１条 この規則は，公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）定款，同定款施行細則および同会計処理規則に基づき，「特定費用準備資金」および「特定資産の取得または取得した資産の改良に充てるために保有する資金（以下「特定資産取得・改良資金」という」）の取扱いに関し必要な事項を定めることを目的とする．

（定 義）
第２条 この規則において使用する用語の意義は，次の各号のとおりとする．
(1) 特定費用準備資金
公益社団法人および公益財団法人の認定等に関する法律施行規則(以下「認定法施行規則」という）第 18 条第１項本文に定める将来の特定の活動の実施のために特別に支出する費用（事業費または管理費として計上されることとなるものに限る）に係る支出に充てるための資金をいう．
(2) 特定資産取得・改良資金
認定法施行規則第 22 条第３項第３号に定める特定の財産の取得または改良に充てるために保有する資金をいう．
(3) 特定費用準備資金等
上記(1)および(2)を総称する．

（原 則）
第３条 この規則による取扱いについては，認定法施行規則に則り行うものとする．

第２章 特定費用準備資金
（特定費用準備資金の保有）

第４条 本会は，特定費用準備資金を保有することができる．

（特定費用準備資金の保有に係る理事会承認手続き）
第５条 本会が，前条の特定費用準備資金を保有しようとするときは，理事長は，事業ごとに，その資金の名称，将来の特定の活動の名称，内容，計画期間，活動の実施予定時期，積立額，その算定根拠を理事会に提示し，理事会は，次の要件を充たす場合において，事業ごとに承認するものとする．
(1) その資金の目的である活動を行うことが見込まれること．
(2) 積立限度額が合理的に算定されていること．

（特定費用準備資金の管理・取崩し等）
第６条 前条の特定費用準備資金には，貸借対照表および財産目録上名称を付した特定資産として，他の資金（他の特定費用準備資金を含む）と明確に区分して管理する．
２ 前項の資金は，その資金の目的である支出に充てる場合を除くほか，取り崩すことができない．
３ 前項にかかわらず，目的外の取崩しを行う場合には，理事長は，取崩しが必要な理由を付して理事会に付議し，その決議を得なければならない．積立計画の中止，積立限度額および積立期間の変更についても同様とする．

第３章 特定資産取得・改良資金

（「特定資産取得・改良資金」の保有）
第７条 本会は，特定資産取得・改良資金を保有することができる．

（「特定資産取得・改良資金」の保有に係る理事会承認手続き）
第８条 本会が，前条の特定資産取得・改良資金を保有しようとするときは，理事長は，資産ごとに，その資金の名称，対象となる資産の名称，目的，計画期間，資産の取得または改良等（以下「資産取得等」という）の予定時期，資産取得等に必要な最低額，その算定根拠を理事会に提示し，理事会は，次の要件を充たす場合において，資産ごとに承認するものとする．
(1) その資金の目的である資産を取得し，または改良することが見込まれること．
(2) その資金の目的である資産取得等に必要な最低額が合理的に算定されていること．

（「特定資産取得・改良資金」の管理・取崩し等）
第９条 前条の特定資産取得・改良資金については，貸借対照表および財産目録上名称を付した特定資産として，他の資金（他の特定資産取得・改良資金を含む）と明確に区分して管理する．
２ 前項の資金は，その資金の目的である支出に充てる場合を除くほか，取り崩すことができない．
３ 前項にかかわらず，目的外の取崩しを行う場合には，理事長は，取崩しが必要な理由を付して理事会に付議し，その決議を得なければならない．積立計画の中止，資産取得等に必要な最低額および積立期間の変更についても同様とする．

第４章 公表および経理処理

（「特定費用準備資金等」の公表）
第 10 条 特定費用準備資金等の公表について，資金の取崩しに係る手続き並びに特定費用準備資金については積立限度額およびその算定根拠の書類を，特定資産取得・改良資金については資産取得等に必要な最低額およびその算定根拠の書類を，定款第 54 条第１項により事務所に備え置くことおよび同条第２項により閲覧に供するものとする．

（特定費用準備資金等の経理処理）
第 11 条 特定費用準備資金については，公益認定法施行規則第 18 条第１項，第２項，第４項，第５項および第６項に基づき，経理処理を行う．

2 特定資産取得・改良資金については，公益認定法施行規則第 22 条第 4 項の準用規定に基づき，経理処理を行う．

第５章 雑 則

（法令等の読替え）

第 12 条 この規則において引用する条文の条数・項番号等が，関係法令の改正等に伴い変更された場合においては，関係法令の改正等の内容に対応して適宜読み替えるものとする．

（改 廃）

第 13 条 この規則の改廃は，理事会の決議を経て行う．

（細 則）

第 14 条 この規則の実施に必要な細則は，財務委員会が創案し，理事長が定めるものとする．

附 則

この規則は，令和 6 年 3 月 19 日より施行する．

変　更

定款施行細則

現　行	変　更
第9章　地 方 部 会 第54条　各部会に部会長を置く．必要に応じて各部会に副部会長1名を置くことができる．副部会長は部会長を補佐し，また部会長に事故がある時または欠けたときには副部会長がその職務を代行することができる． 2　部会長は，当該部会学術評議員会において選出する．副部会長は学術評議員の中から部会長が指名する．副部会長は開催年の4月1日に年齢満65歳未満でなければならない．	第9章　地 方 部 会 第54条　各部会に部会長を置く．必要に応じて各部会に副部会長1名を置くことができる．副部会長は部会長を補佐し，また部会長に事故がある時または欠けたときには副部会長がその職務を代行することができる． 2　部会長は，当該部会学術評議員会において選出する．副部会長は学術評議員の中から部会長が指名する．部会長および副部会長は開催年の4月1日に年齢満65歳未満でなければならない． 附　則　本細則は，令和5年8月28日より施行する．

名誉会員推薦規定運用基準

現　行	変　更
2. 名誉会員推薦規定第2条第1号 b）の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする． (1) 理事，監事又は年会長を経験した者 (2) 常置委員会及び特別委員会（定款施行細則第41条第2項の特別委員会の他に，理事会が必要性を認め，設置を承認した特別委員会を含む）の委員等を通算10年以上経験した者 委員歴の算定に当たり，次の事項はいずれも委員歴2年と数える． a）副年会長，部会長及び副部会長経験者 b）常置委員以外のJournal of Pharmacological SciencesのEditor経験者 c）常置委員以外の日薬理誌の編集委員経験者 d）64才で就任し任期1年で退任した選挙選出常置委員	2. 名誉会員推薦規定第2条第1号 b）の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする． (1) 理事，監事又は年会長を経験した者 (2) 常置委員会及び特別委員会（定款施行細則第41条第2項の特別委員会の他に，理事会が必要性を認め，設置を承認した特別委員会を含む）の委員等を通算10年以上経験した者 委員歴の算定に当たり，次の事項はいずれも1回以上の経験があれば委員歴2年と数える． a）副年会長，部会長及び副部会長経験者 （削除） b）64才で就任し任期1年で退任した選挙選出常置委員 附　則　本基準は令和5年8月28日より施行する．

永年会員推薦規定運用基準

現　行	変　更
1. 永年会員推薦規定第2条に基づき，理事会が永年会員に推薦する者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない． (1) 本会の学術評議員としての経歴が30年以上あり，かつ，副年会長，部会長，副部会長，常置委員会委員，特別委員会（定款施行細則第41条第2項の特別委員会の他に，理事会が必要性を認め，設置を承認した特別委員会を含む）委員，Journal of Pharmacological SciencesのEditor又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者	1. 永年会員推薦規定第2条に基づき，理事会が永年会員に推薦する者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない． (1) 本会の学術評議員としての経歴が30年以上あり，かつ，副年会長，部会長，副部会長，常置委員会委員，特別委員会（定款施行細則第41条第2項の特別委員会の他に，理事会が必要性を認め，設置を承認した特別委員会を含む）委員として本会の発展に貢献した者 附　則　本基準は令和5年8月28日より施行する．

Ⅷ. 理事会等報告

理 事 長：赤羽 悟美　　以上 1名
理　　事：上原　孝，甲斐 広文，金井 好克，諫田 泰成，黒川 洵子，小泉 修一，杉山　篤，髙橋 禎介，
　　月見 泰博，津田　誠，橋本　均，廣瀬 謙造，古屋敷智之，三澤日出巳，南　雅文，村松里衣子，
　　柳田 俊彦，山田 清文，若森　実　　以上 19名
監　　事：上園 保仁，原　英彰　　以上 2名
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：安西 尚彦，今井由美子，谷内 一彦 以上 3名

１．理事会構成について

2023年度は，赤羽 悟美 理事長，古屋敷 智之 総務委員長，橋本 均 財務委員長，小泉 修一 編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の20名で理事会が運営された．監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した．谷内 一彦 前理事長，安西 尚彦 96回年会長，今井 由美子 97回年会長がオブザーバーとして参加した．理事会の継続性担保のため，第4回理事会から次期役員候補者がオブザーバーに加わった．常務理事は必要に応じてWeb会議を開催し，また事務局との定例ミーティング（Web）を行い，課題を合議した．理事会はハイブリッド方式で開催し，急を要する案件についてはメール審議を行った．必要に応じて理事懇談会（Web）を開催した．

２．学会の運営方針について

・本学会定款の「薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及，会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより，薬理学の進歩を図り，もってわが国の学術文化の発展に寄与することを目的とする」という趣旨に則り，これまでの理事会の方針を継承し，さらに活発な学術研究活動を推進するという今期の活動方針のもと，Diversity, Integration, Sustainabilityという3つのキーワードを掲げ学会運営を行った．
・薬理学会運営の持続可能性を実現するべく，事務局員負担削減および事務管理態勢強化のために事務局業務の一部を株式会社エー・イー企画に委託した．
・会員管理システムおよび学術集会参加・演題登録システムに関して，新たなシステムの導入を実施した．運用は4月以降を予定している．

３．学会の在り方と薬理学の展開について

1）学術集会，講演会等の開催事業について

・第97回年会(今井 由美子 年会長)は，12月14日(木)から12月16日(土)まで，神戸国際会議場・神戸国際展示場2号館（兵庫県神戸市）で第44回日本臨床薬理学会学術総会と同時期開催された．
　テーマ：『いのちと科学を薬でむすぶ』
・地方部会は，第148回関東部会はオンライン形式，第147回関東部会はオンライン会場併用のハイブリッド形式，第143回近畿部会，第74回北部会，第76回西南部会，第149回関東部会は現地でそれぞれ開催された．
・薬理学振興助成事業の市民公開講座は第97回年会の開催に合わせて現地で2講座開催された．
・次世代の会による次世代薬理学セミナーは第147回関東部会，第76回西南部会の開催に合わせてオンライン会場併用のハイブリッド形式で開催された．
・シン・薬理学セミナー第2回Digital Pharmacology Conference（DPC）大会は第149回関東部会の開催に合わせ，現地およびオンライン（メタバース）によるハイブリッド形式で開催された．
・看護薬理学カンファレンスは6月18日(日)と12月17日(日)にオンライン形式で開催された．それぞれ開催後にオンデマンド配信を行った．

2）学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌は隔月刊で，奇数月に発行している．
・Japanese Pharmacological Sciences（JPS）は，Section Editor 5名、Associate Editor 18名で、魅力的な論文の正確で素早い編集に務めている．特別号では、トレンドの話題を積極的に取り入れる他，江橋節郎賞，学術奨励賞の受賞者には総説の執筆を積極的に依頼している．

JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の令和 5 年度受賞者 4 名を決定した．

3）研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき上田 泰己氏（東京大学・院医・教授）を第 17 回江橋節郎賞受賞者に決定した．
・第 39 回学術奨励賞受賞者 3 名を決定した．
・第 29 回 JPS 優秀論文賞受賞論文 3 編を決定した．JPS 優秀論文賞は，過去 3 年間に JPS に掲載された論文の中から選出されてきたが，2022 年度以降は，授賞年度の前年 1 年間に JPS に掲載された原著論文の中から選考し，その著者に授与することを決定した．

4）薬理学に関する研究及び調査について

・将来構想委員会が第 96 回年会の事前・事後アンケート調査を実施し，集計結果を取りまとめ公表した．アンケート調査から得られたデータと薬理学会会員の声を今後の年会および学会の運営に活かしていく．
・年会学術企画委員会が第 97 回年会の事前参加登録者に一斉メールを配信し，参加者アンケートを行った．回収した参加者層のデータや参加目的，薬理学会の年会に対する様々な要望を分析し，今後の年会の活性化に生かしていく．

5）内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

・第 9 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting（2023 年 7 月 23 日～26 日，上海）に本会代表とし古屋敷智之教授（神戸大学）が参加した．
・第 2 回国際対応アソシエイツ交流会（2023 年 8 月 2 日）をオンライン開催した．
・ASCEPT 2023 Annual Scientific Meeting（2023 年 11 月 20 日～23 日，シドニー）に講師交換プログラムとして古屋敷智之教授（神戸大学）を派遣した．
・第 97 回年会中に IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会「IUPHAR データベース Guide to Pharmacology, Pharmacology Education Project（PEP）の利用ガイダンス」を開催し，金井好克教授（大阪大学），冨田修平教授（大阪公立大学）が講演した．
・日本学術会議「未来の学術振興構想」に日本解剖学会・日本生理学会・日本薬理学会が合同で「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究のサステナブル循環システムの構築」を提案し，「学術の中長期研究戦略」No.35 に掲載された．
・日本医学会連合領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）の 2023 年度採択事業に参加し，2024 年度 TEAM 事業を提案した．

4．令和 5 年度「薬理学エデュケーター認定」申請者 16 名を認定した．認定期間は令和 6 年から 5 年間である．

5．第 99 回年会長候補者（2026 年），第 100 回（2027 年）年会長候補者の決定

第 99 回日本薬理学会年会長として東北大学・院歯・教授の若森実氏が提案され，承認された．第 99 回年会は，2026 年 3 月 16 日(月) から 18 日(水)に東北大学川内キャンパスで開催される予定である．また，第 100 年会の年会長候補者を内定した．

6．名誉会員の推薦

令和 6 年度に就任する名誉会員候補者 2 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した．

吉川 公平，高橋 健三

7．永年会員の推薦

令和 6 年度に就任する永年会員候補者 5 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した．

岸岡 史郎，河田 光雄，平山 隆士，三宅 雅久，山下 修司

8．令和 6 年度薬理学振興助成事業決定について

1）次世代薬理学セミナー，2）市民公開講座，3）看護薬理学カンファレンス 2024，4）シン・薬理学セミナー Digital Pharmacology Conference の各助成事業及び助成額を決定した．

9．令和 5 年度の事業報告及び決算を承認し，学術評議員会及び総会に付議する．令和 6 年度事業計画及び予算は，令和 5 年 12 月 13 日開催の理事会の承認，決定を経て内閣府に提出した．

１０．令和 5 年度の新規入会者 346 名を承認した．令和 6 年度からシニア割引適用を希望する 11 名を承認した．

Ⅸ. 委員会等報告

（各委員会委員名は五十音順，敬称略）

総務委員会報告

委員長：古屋敷智之
委　員：安西 尚彦，金井 好克，黒川 洵子，杉山　篤，新田 淳美，廣瀬 謙造，森岡 徳光，守屋 孝洋，柳田 俊彦

本年度は 8 月 18 日，11 月 13 日に Zoom ミーティングを併用して委員会を開催した．

１．副理事長および次期理事長の選考方法について
・委員長より，定款施行細則第 18 条では，「本会に，理事長のほかに次期理事長候補として副理事長 1 名を置く」と定められているが理事の任期は最大 4 年であるため，副理事長は 1 期目の理事の中から選出されることとなり，選択肢が限られる．また定款第 25 条では，理事長は「理事会の決議によって理事の中から選定する」と定められているが，この理事会とは理事長が選出される期の理事会を意味することから，定款施行細則第 18 条と矛盾する恐れがあることが報告され，定款施行細則第 18 条の削除を理事会に提案し，承認された．
定款施行細則第 18 条を削除した上で，理事長業務代行は常務理事（執行役員）が務めることが規定されていることから，副理事長の役職を一旦廃止し， 副理事長の役割や位置づけを改めて審議した上で副理事長の制定を検討することが，理事会にて承認された．

２．規定の制定について
・委員長より，日本薬理学会将来構想委員会規定（案）を理事会に提案し，承認された．
・委員長より，1）定款施行細則の第 9 章 第 54 条 第 2 項の改訂時に，副部会長の年齢の要件について「開催年の 4 月 1 日に年齢満 65 歳未満でなければならない．」と規定されたが，部会長については，これまで年齢の要件を明記していなかったため，実情に即して文言を追加すること，2）名誉会員推薦規定運用基準の委員歴の算定において，副年会長や副部会長は複数回選任される可能性があることから，「副年会長，部会長及び副部会長経験者」については，経験回数に関わらず委員歴 2 年と数えることを明記すること，3）また，同運用基準には委員歴 2 年と算定する項目として「常置委員以外の Journal of Pharmacological Sciences の Editor 経験者」並びに「常置委員以外の日薬理誌の編集委員経験者」が規定されているが，これらの情報は事務局での安定的・長期的な管理が難しく，これまでの候補者選出に使用された実績がないため，当該の項目を削除すること，4）同様の理由から，永年会員推薦規定運用基準からも，別項目の「常置委員会委員」に該当しない「Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員」を削除することが示され，委員会後に編集委員長，広報委員長の承諾が得られたため，総務委員会案として理事会に提案し，承認された．いずれも令和 5 年 8 月 28 日より施行された．

３．新名誉会員・新永年会員の推薦について
名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，令和6年度に就任する名誉会員候補者2名，永年会員候補者5名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した．

４．シニア会費適用の申請について
令和6年度会費からシニア会費適用を希望する会員について申請内容を確認し，申請者11名全員にシニア会費が適用されることを確認し，理事会に報告した．

５．学会ホームページから各電話番号掲載削除について
事務局人員不足から，学会ホームページへ各電話番号の表示を控え，問い合わせは原則メール対応とすることを理事会に提案し，承認された．

利益相反（COI）委員会報告

委員長：古屋敷智之
委　員：安西 尚彦，金井 好克，黒川 洵子，杉山　篤，新田 淳美，廣瀬 謙造，森岡 徳光，守屋 孝洋，柳田 俊彦

8 月の総務委員会に合わせて委員会を開催した．COI 申告書については，委員長により審査が行われ，その結果が委員に報告された．

財務委員会報告

委員長：橋本 均
委　員：石毛 久美子，岩本 隆宏，甲斐 広文，金井 好克，杉山 篤，平 英一，武田 泰生，冨田 修平，三澤 日出巳
オブザーバー：赤羽 悟美

委員会を 11 月 14 日（火）に，税理士陪席でオンライン（ZOOM）開催した．令和 5 年度の決算処理を行い，令和 6 年度の予算案を編成した．会計に係る重要事項は，事前に財務ワーキンググループで検討を行った．

1．令和5年度決算について

令和5年度は収入113,976,428円，支出110,941,938円，収支差額は約303万円の黒字で決算した．一般正味財産は1億8,421万円，指定正味財産と合わせた令和5年度末の正味財産は1億8,888万9,067円となり，前年度より約294万円の増加であった．

1）個人会費収入は緩やかであるが，昨年度に引き続き減少している．賛助会員も口数減の申し出があり，予算705万円を下回る約645万円であった．

2）公1事業：

・第96回年会から年会開催準備金の返金および口座解約にあたり送金があり，令和4年度決算時に計上した未払金を含む関連費用を精算した（会期令和4年11月30日-12月3日）．

・第97回年会はオンサイト形式で第44回日本臨床薬理学会学術総会と同時期開催され，年会長の創意工夫により成功裡に閉会し，約600万円の黒字で決算した（会期12月14日－同月16日）．

・部会は6部会（オンライン1部会，ハイブリッド開催1部会，オンサイト4部会）が開催された．各部会長の努力により会場費を初めとして予算下回る額で決算したが，通信交通費は予算の約67万円を上回る支出（約116万円）となった．部会からの交付金は約76万円が学会会計に返却された．

・薬理学振興助成事業は，寄付金や広告・展示料などの収入を得た事業があることから，補助金額は昨年より下回る約390万円となった．

・学術集会関連支出は，管理費から事務所借料，給与手当，業務委託費等の配賦を含めた約898万円である．

3）公2事業：

・和文誌の刊行収入は購読料や広告料等で約527万円と昨年に比して微増となったが，支出額は管理費からの配賦額を含めて増大を見込んでいる．

・英文誌はエルゼビアのロイヤリティ収入として，掲載料収入と広告料収入の年間合計が14万ドルを超えた金額の10%に当たる約46万円が入金された．USドル建てで支払うため円安の影響を受け，編集事務局経費（45,000USドル）や学会負担のSpecial Issue掲載料は昨年に引き続き膨らんだ．国際情報発信科研費（650万円/年）だけでは，全額の充当は厳しい．

4）公3及び公4事業：

・褒賞事業は，昨年に引き続き選考委員会をオンライン開催することで，旅費を減少した．

・国内団体との連携事業は，薬系合同連合で旅費約5万円が発生する見込みである．

・国外団体との連携事業は，日中薬理・臨床薬理ジョイントミーティング旅費補助として16万円は発生したものの，昨年に続き旅費の支出が抑えられた．

5）その他事業：

・令和5年のエデュケーター認定申請者数は16名であった．

6）法人会計：

・令和4年に引き続き会議のほとんどはオンライン開催であったため，旅費・通信交通費は令和4年の約113万円から約80万円へ減少した．

・職員退職により，法定福利費は予算180万円に対して約155万円で期末を迎えた．ただし事務局業務の部分委託や人材不足による外部への委託により，業務委託費は予算860万円より大幅に増加した2,960万円となった．

2．令和6年度予算案編成の件

令和6年度は収入額61,274,400円，支出額74,576,270円，収支差額13,301,870円の赤字予算を編成した．①年会は開催されないため支出入は発生しない，②部会は7回開催する，③薬理学振興助成事業は年会が開催されないため支出入が例年より少ない，④刊行事業は令和5年と同じ発行回数で計上するが，和文誌は5月号から完全オンライン化すると想定（オンデマンド印刷については50冊を想定），英文誌は令和5年と発行形態が同じと想定，⑤連携事業は15th APFPにかかる費用などを計上するため令和5年度と比して支出増が見込まれる，⑥法人会計は事務局体制が前年までと大きく変わるため，業務委託費などの項目で支出増を想定し，本予算を理事会に提案した．

各委員会には引き続きオンライン開催を有効活用して，経費節減への協力を仰ぐ．

また部会開催が会期末に近い期間の場合，年内決算をして未収・未払計上を少なくするよう協力を仰ぎたい．

1）　公1事業は年会が開催されないため，部会，薬理学振興助成事業，学術集会費の予算とする．

2）例年より多い7部会が開催される．経常収益を約966万円，経常費用を1,100万円とした．

3）薬理学振興助成事業申請は年会が開催されないため，例年より少ない経常収益78万円，経常費用443万円と抑えた予算としている．

4）公2の刊行事業のうち和文誌は完全オンライン化を5月号からとし，オンデマンド印刷の収入として50冊分を計上した．

5）公4の連携事業に15th APFPにかかる費用として40万円を計上している．
6）前年までの緩やかな減少を受け，学術評議員，一般会員，賛助会員からの会費収入は少なめに見積もっている．

3．APPW2025のインボイス制度対応
令和7年（2025年）に開催される第98回年会は，日本解剖学会，日本生理学会との合同大会である．インボイス制度に対応していると，企業展示やランチョンセミナーに出資する企業が消費税等の優遇を受けられる．しかし日本解剖学会，日本生理学会は適格請求書発行事業者に未登録であり，学会規模から今後も登録予定はない．企業が一度出資を取りやめると，次回以降の年会で企業展示に出資することは難しいため，避けたい．各会担当の公認会計士・税理士に相談して，令和6年中に方針を定める．必要に応じて，メール審議等で本委員会に諮る．

研究推進委員会報告
委員長：津田　誠
委　員：石川 智久，小原祐太郎，甲斐 広文，香月 博志，諫田 泰成，成田　年，西山　成，村松里衣子，山村 寿男

１．第44回日本臨床薬理学会学術総会における共催シンポジウムについて
研究推進委員会の西山委員と協議し，「創薬活動の実践」（オーガナイザー：西堀 正洋先生（岡山大学），西山 成先生（香川大学））というタイトルで提案し，採択された．同シンポジウムは12月16日に行われた．

２．日本医学会シンポジウムテーマ案について
赤羽理事長よりご依頼があり，研究推進委員会でメール会議（2023年10月2～5日）を行い，「慢性疼痛」（組織委員候補：成田 年先生（星薬科大学），津田 誠（九州大学））というテーマで提案することとなった．

３．第97回日本薬理学会年会における「日本薬理学会若手会員（学生・ポスドク）と大学等研究室や製薬企業等とのマッチングイベント」について
研究推進委員会委員，第97回年会の今井先生と日比野先生，次世代の会の宮川先生と鈴木先生，および企画教育委員会の南先生と共に数回にわたり議論を重ね，企画・開催内容，開催日時および場所等を決定し，以下の通り開催した．

開催日時：　2023年12月14日（木）　17:00～19:00
開催場所：　神戸国際展示場2号館1階（ポスター発表会場）

開催当日は，学生・ポスドク33名，大学等研究室および製薬企業（以下；五十音順）関係者17名が参加した．若手会員（学生・ポスドク）は自身の研究成果を，大学等研究室・製薬企業等の関係者は研究内容や活動等を，それぞれポスターにて発表およびディスカッションし，活発な意見・情報交換が行われた．

＜製薬企業＞
小野薬品工業株式会社，塩野義製薬株式会社，田辺三菱製薬株式会社，中外製薬株式会社，東レ株式会社，日本ケミファ株式会社，日本新薬株式会社
＜大学等研究室＞
群馬大学医学部薬理学講座，国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部

４．日本医学会連合基礎部会Rising Starリトリートについて
赤羽理事長よりご依頼があり，次世代の会の宮川先生との協議，および研究推進委員会メール会議（2023年12月22～25日）での承認を経て，矢吹 悌先生（熊本大学）と永安 一樹先生（京都大学）を推薦することとなった．

編集委員会報告
委員長(Editor-in-Chief)：小泉 修一
委員(Section Editors)：岩本 隆宏，大野 行弘，諫田 泰成，東田 千尋，中川 貴之
(Associate Editors)：久米 利明，黒川 洵子，山村 寿男，香月 博志，冨田 修平，吾郷 由希夫，小原 祐太郎（オブザーバー）

Ⅰ．JPS 投稿・審査状況（投稿数，採択数，IF，スピード）（2023年12月31日現在）

1．受付論文数

1）推移（2017-2023）

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	**2023**
Submitted	348	525	603	825	1,071	543	**493**
Rejected	180	287	344	592	817	425	**359**
Accepted	108	137	127	110	117	92	**76**
Withdrawn	32	47	50	190	137	158	**68**
Publications	95	143	129	119	124	87	**76**

・5年前の投稿数に戻った.

・発行数は5年前の約半分.

2） 国別（2021-23）

年・国	中国	日本	India	Iran	Egypt	USA	Thailand	Taiwan	Korea	Pakistan	Nigeria
2021	765	92	50	30	20	11	9	8	5	5	-
2022	394	84	6	6	-	8	2	8	6	4	-
2023	351	**85**	8	9	9	1	5	5	5	0	3

・投稿数の減少は中国からの投稿数減によるもの.

・日本の投稿数は不変.

・インド，イラン，エジプト等の発展途上国からの投稿が激減.

2．採択数

1）Top 10の採択状況

年・国	日本	中国	韓国	USA	Taiwan	Thailand	Ireland	Italy	Sweden	Canada
2022	**71**	11	2	2	1	1	1	1	1	1
2023	**59**	9	1	3	1	0	0	0	0	0

・日本，中国の順位は変わらず．USA，韓国の発刊数を増やしたい.

2）Section別Accept/Reject論文数 2023（2022）

Section	**Status**	**Number**
Anticancer drug/Toxicology	Accepted	8(4)
	Rejected	51(100)
Biopharmaceutical/Clinical Pharmacology	Accepted	11(13)
	Rejected	59(71)
Cardiovascular pharmacology and pharmacology in other systems	Accepted	29(44)
	Rejected	106(136)
Natural and herb medicine	Accepted	4(10)
	Rejected	90(67)
Neuropharmacology	Accepted	24(20)
	Rejected	51(50)
Section導入以前	Accepted	0(1)
	Rejected	0(0)
Total	Accepted	76(92)
	Rejected	359(425)

・Acceptは，Anticancer drug/Toxicologyが増えた以外は，微減～半減.

3．Impact Factor （Journal Citation Report JCR® 発表）

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	**2022**
IF	2.360	2.106	2.415	2.575	2.439	2.835	3.337	3.578	**3.5**
citation					4,069	4,217	5,204	5,473	**5,196**

・IFは微減．ほぼ高い位置を保っている．これを維持・向上させたい.

４．編集スピード（week）

年	2018	2019	2020	2021	2022	**2023**
First Decision	4.4	5.0	5.0	5.1	5.0	**4.0**

・First Standart Decisionまでの時間が4週（28日），と目標に近づいてきた．

II. Special Issue（SI）強化と問題点

１．江橋賞・奨励賞受賞者が未投稿

・受賞者はJPSへの総説（原著も可）投稿が条件となっているが未投稿者が多い．
・賞金のタイミングを考える．
・リマインダーを編集委員長や理事長から送付する，受賞者上司に連絡，等の対策が必要．

２．発展途上国主体のＳＩ（科研費　国際情報発信強化Aの中間評価で指摘された件）

・タイの先生からのSI提案等，コンゴ，マレーシアの先生方からの問い合わせ等，APCがネックになっている．
・依頼執筆者の掲載料が無料になること，Research4Lifeの使用等を考慮して進めて行く．

３．Cross-Journal SI

・Cell PressとElsevierがJournal横断的にSIを企画．
・参加雑誌：Cell Reports Medicine, Pharmacological Research, iScience, JPSが参加．
・タイトル：「Sixty years from THC: landscape and perspectives on the pharmacology of cannabinoids」．

４．現在，Sulfur PhramacologyのSI（吾郷先生企画）が進行中．他の企画も募集中．

III. 100周年特別企画SI

・2027年３月の日本薬理学会の100周年大会の特別企画SI出版を行う．
・2024年中に企画完成，2025年秋から投稿募集開始，2026年末に出版予定．
・担当：黒川先生，中川先生．

IV. 2023年優秀査読者賞

・Kazuho Sakamoto, University of Shizuoka, Shizuoka, Japan
・Junko Kurokawa, University of Shizuoka, Shizuoka, Japan
・Kazuharu Furutani, Tokushima Bunri University, Tokushima, Japan
・Takayuki Matsumoto, Hoshi University, Tokyo, Japan

V. 2023年優秀論文賞

JPS 優秀論文賞規定およびJPS 優秀論文賞受賞論文選考規定に従って，受賞論文を以下のとおり決定した．

・著者：Wataru Morozumi, 所属： Gifu Pharmaceutical University,
　タイトル：Piezo 1 is involved in intraocular pressure regulation.

・著者：Haoyang Wang, 所属： Tohoku University,
　タイトル：Novel FABP3 ligand, HY-11-9, ameliorates neuropathological deficits in MPTP-induced Parkinsonism in mice.

・著者：Ryoko Sasaki, 所属： Kumamoto University,
　タイトル：Combinatorial screening for therapeutics in ATTRv amyloidosis identifies naphthoquinone analogues as TTR-selective amyloid disruptors.

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：山田 清文
委　員：吾郷由希夫，石澤 啓介，石澤 有紀，上原　孝，大矢　進，金子 周司，木内 祐二，久米 利明，武田 泰生，田熊 一敞，成田　年

2023 年 6 月 24 日および 12 月 14 日に委員会を開催した．また必要に応じてメール審議を行った．

１．日薬理誌完全オンライン化について

前年度より検討を続けている日薬理誌の完全オンライン化について，3302 名の会員に対してアンケートを行い（2023

年 4 月 10 日～4 月 24 日実施），486 名から回答があった（回答率 14.7%）．アンケートの結果としては 75%程度が完全オンライン化に賛成しており，この結果も基に完全オンライン化に移行することを決めた．完全オンライン化にあたっては，単にサービス低下とならないよう，全文 HTML 形式での公開方式に変更する．また J-STAGE のような記事単位ではなく，雑誌全体を閲覧できるような電子ブックを学会 HP にて公開する．完全オンライン化は 159 巻 3 号（2024 年 5 月号）から開始する．

なお，完全オンライン化後も希望者には有料で冊子体の配布を行う．その場合の価格も以下のとおり決定した．
申込期限は 2024 年 4 月 10 日とし，購入希望者は日本薬理学会誌出版部（ journal@pharmacol.or.jp ）へメールにて連絡をいただく．

会員価格（1 年間）

冊子	9,000 円（1,500 円×6 冊）
送料	600 円（100 円×6 冊）
消費税	960 円
合計	10,560 円

非会員購読価格（1 年間）

冊子	18,000 円（3,000 円×6 冊）
送料	600 円（100 円×6 冊）
消費税	1,860 円
合計	20,460 円

非会員電子書籍購読価格（1 年間）

電子書籍	9,000 円（1,500 円×6 冊）
消費税	900 円
合計	9,900 円

企画教育委員会報告

委員長：南　雅文
委　員：石毛 久美子，石澤 啓介，上原　孝，坂本 謙司，西山　成，村松里衣子，柳田　俊彦，山口　拓，若森　実

前回の総会以降，委員会を 3 回（対面 1 回，WEB2 回）開催し，所管事項について検討を行った．

１．新学術評議員申請の審査
新学術評議員選考規定に基づき，学術評議員申請の審査を行った．通常申請者 16 名については，会員歴および業績の基準を満たすことから 16 名の申請者全員を新しく学術評議員とすることとした．特例措置での申請者 2 名についても，新学術評議員選考規定第 6 条に照らし，特例に該当することから，新しく学術評議員とすることとした．以上の審査結果により 18 名を理事会に上申することとした．

２．薬理学エデュケーター申請の審査
事前に各委員より送付された審査結果に基づき，2023 年度の薬理学エデュケーター申請の審査を行った．申請 16 件について申請要件を満たしていることから，薬理学エデュケーターとして認定することを理事会に上申することとした．同候補者について理事会に諮ったところ，全 16 名の認定が承認され，ホームページに認定者一覧を掲載した．令和 6 年 1 月に発効する薬理学エデュケーター認定証を送付した．

３．次世代薬理学セミナー開催報告・開催計画
次世代薬理学セミナーについては，今後もできる限り，オンサイトと WEB のハイブリッド開催とすることとした．
【次世代薬理学セミナー開催報告と開催計画】
2023 年 3 月 21 日　東京（第 147 回関東部会）
2023 年 10 月 7 日　那覇（第 76 回西南部会）
2024 年 9 月 21 日　盛岡（第 75 回北部会）
2024 年 10 月 12 日　東京（第 151 回関東部会）

４．看護薬理学カンファレンス開催報告・開催計画
【看護薬理学カンファレンス開催報告と開催計画】
2023 年 6 月 18 日　東京（第 148 回関東部会）
2023 年 12 月 17 日　神戸（第 97 回年会）

2024年6月29日　東京（第150回関東部会）
2024年11月3日　石川（第12回看護理工学会学術集会）

賞等選考委員会報告

委員長：三澤日出巳
委　員：大野 行弘，岡村 信行，小原祐太郎，甲斐 広文，金井 好克，三枝　禎，冨田 修平，村松里衣子

委員会を1回開催し，以下について審議した．

1．第39回（令和6年度）学術奨励賞
受賞候補者の選考について「賞等選考委員会規定」，「学術奨励賞規定」，「学術奨励賞受賞者選考規定」，推薦者の評価方法，基本方針を確認し，候補者5名の推薦書について，事前に全委員が審査した評価をもとに検討を行った結果，委員会は，第39回日本薬理学会学術奨励賞の受賞候補者として，鈴木 良明氏，永安 一樹氏，矢吹 悌氏（五十音順）の3名を理事会に答申することを決定した．
候補者名，研究課題は，以下のとおりである．
【受賞候補者】
鈴木 良明（名古屋市立大学・大学院薬学研究科・講師）
『カルシウムマイクロドメインによる血管機能制御機構の解明』
永安 一樹（京都大学・大学院薬学研究科・助教）
『情動抑制およびストレス抵抗性におけるセロトニン神経の役割に関する研究』
矢吹 悌（熊本大学・発生医学研究所・准教授）
『プリオン性タンパク質凝集機構の解明と創薬応用に関する薬理学的研究』

2．令和6年度開催の薬理学振興助成事業の選考について
申請のあった 4件について審議した．例年より申請数が少ないのは，令和6年に年会が開催されないことによる．審議の結果，いずれも助成するに相応しい事業と判断し，申請金額の通り採択することを決定した．

年会学術企画委員会報告

委員長：若森　実
委　員：甲斐 広文，吉川 公平，高橋 禎介，戸村 裕一，西田 基宏，西山　成，村松里衣子
オブザーバー：赤羽 悟美（理事長），安西 尚彦（第96回年会長），今井 由美子（第 97 回年会長），月見 泰博（理事），日比野　浩（第 97 回組織委員会副委員長）

第97回年会が2023年12月14日～16日，神戸国際会議場・神戸国際展示場２号館で開催されるため，3月6日（月）～4月21日（金）まで，年会HP上で「公募シンポジウム」を公募した．Zoom によるオンライン委員会を開催し，以下の件について，審議し合意した．

第97回年会学術企画について

- シンポジウム：一般公募シンポジウム 36 件，企業企画シンポジウム 1 件の応募があった．委員およびオブザーバーによって，重複がないことや最新知見の紹介あるいは教育的なレビューなど，それぞれの実施目的を確認した．審議の結果，全企画を採択した．
- 第95回と96回年会では産学連携促進企画として「創薬シーズ特設シンポジウム」を開催し，参加者から高い評価を得たが，第97回年会では企業，アカデミア，ベンチャーキャピタルの方々による教育講演やパネルディスカッションを行い，創薬の機運を高める企業企画シンポジウム（「創薬におけるモダリティのダイバーシティについて」）を年会学術企画委員会が中心に企画した．

第 97 回年会学術企画の振り返り

- 第97回日本薬理学会年会はアフターコロナの完全オンサイトの学会として熱気があり，大変良い学術集会であったと高く評価した．
- 年会学術企画委員会が採択した一般公募シンポジウムと企業企画シンポジウムは盛況であり，今後も同様の支援，企画を委員会が実施することとした．

江橋賞選考委員会

委員長：飯野 正光
委　員：岡部 繁男，鍋倉 淳一，深見希代子，岡野 栄之，谷口 維紹　（学会外委員）
　　岡 淳一郎，金子 周司，成宮　周，谷内 一彦　（内部委員）

ZOOM によるオンライン会議として開催した．

１．第 17 回江橋節郎賞選考経過について
・第 17 回は『基礎』の領域から募集を行い，候補者は 3 名であった．
・委員 10 名により，各候補者の研究を「独創性」，「世界から見た位置づけ」，「当該分野に与えた影響度」，「研究の流れ・今後の発展性」の 4 項目と，学会内委員は「薬理学への貢献」を加えた 5 項目で，それぞれを 10 点満点とする事前評価を行い，その結果は選考の参考とすることを確認した．
・公募開始前に学会内委員で推薦書式の主要研究論文リストから，Impact Factor（以後 IF）値の記載欄を削除し，CI 値欄のみとした．IF 値は定量的評価の有効なエビデンスになり得るが，あくまでもジャーナルの指標であり，その論文の指標ではないことは常に指摘されていたことに因る．
・江橋賞選考委員会規定に基づき利害関係者として扱うべき委員がいるかについて慎重に審議し，共著者となっている委員がいるが，①各論文の責任著者ではないこと，②委員本人の研究の方向性とは異なる内容の論文であることから，選考および投票を辞退する必要はなく，委員長の辞任も不要であることが提案され，承認された．ただし慣例により，委員長は投票に加わらない．
・意見交換の後，受賞候補者の決定はⅰ）委員長を除く出席委員 7 名の無記名投票により，その 3 分の 2 以上の票を獲得した者とする，ⅱ）候補者の中に，江橋賞受賞者として相応しい候補者がいないと判断した場合に白票を投じることができるようにする，ⅲ）1 回目の投票で 3 分の 2 以上の票を獲得する候補者がいない場合，上位 2 名で決選投票を実施するがその際にも白票を選択肢に加える，ⅳ）1 回目の投票，決選投票ともに白票は委員の意思表示であり，白票が投票の過半数を超える場合は，相応しい受賞候補者がいないとみなすことが提案され，承認された．
・十分な意見交換が行われた後，候補者 3 名を対象とし，白票を加えて ZOOM の投票機能を用いて無記名投票を実施した結果，投票数の 3 分の 2 以上を獲得した上田泰己候補を，第 17 回江橋賞受賞候補者として理事長に推薦することを決定した．
　候補者の研究テーマ：『哺乳類睡眠・覚醒リズムのシステムレベルの理解』

２．受賞候補者の研究について
上田泰己候補の業績は大きく 2 つに分けられる．一つは先端的な研究を進めるために，実験技術の開発や，既存の技術を改良し，幅広い分野での応用を可能としたことである．①CUBIC 法を用いて透明度を上げるとともに，生体臓器に豊富に含まれているヘモグロビン中のヘムを溶出して光の吸収を抑制し，脳だけでなく各臓器および個体全体を透明化することに成功している．②3 つの CRISPR プローブを組み合わせた Triple-CRISPR 法により，ノックアウト効率を改善し，交配不要で第一世代でのノックアウトマウス（KO マウス）の高効率の作製を実現している．③睡眠サイクル無侵襲自動測定法（SSS 法）を開発した．④人での睡眠・覚醒パターン分析の自動測定法である ACCEL 法を開発した．業績のもう一つは，上記①②③の技術を駆使して睡眠誘導及び維持のメカニズムやサーカディアンリズムに関する独創的な研究を展開していることである．

３．委員の任期満了について
学会外及び学会内共に，本年で任期満了となる委員はいない．

国際対応委員会報告

委員長：金井 好克
委　員：安西 尚彦（副委員長），黒川 洵子，西田 基宏，廣瀬 謙造，古屋敷智之，若森 実
顧　問：飯野 正光，三品 昌美
オブザーバー：
　小泉 修一（編集委員長）
　石井　優（IUPHAR Immunopharmacology section 委員）
　近藤 一直（IUPHAR Education section 委員）
　冨田 修平（IUPHAR PEP 委員）
　川畑 篤史（「国際対応アソシエイツ」より：BPS との連携）

1. IUPHAR、APFP 関連委員
NC-IUPHAR: 金井 好克，貝淵 弘三
Education Section: 近藤 一直
Pharmacology Education Project (PEP): 冨田 修平
Immunopharmacology Section: 石井　優
Neuropsychopharmacology: 古屋敷智之
Early Career Researcher Committee: 中嶋　藍
APFP Secretary General/Treasurer :安西 尚彦
APFP councilor: 飯野 正光
APFP past president: 三品 昌美
日本学術会議 IUPHAR 分科会委員長：金井 好克（25 期）、古屋敷智之（26 期）

2．国際対応アソシエイツ．本委員会の重要な役割の一つである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づき，会員との連携推進の一環として，国際交流のさらなる充実・拡充を図り，また国際交流イベント等への参画を促進することを目的として「国際対応アソシエイツ」を運営している．国際対応アソシエイツは，国際交流に関する会員の連絡会であり，国際対応委員会と連携し，イベント等の企画，立案，実施へ参画，必要に応じて国際対応委員会にオブザーバーとして参加．2023 年 8 月 2 日に，国際対応アソシエイツ交流会をオンラインにて開催した．

3．国際交流ひろば（国際対応委員会 HP）．本委員会のミッションのひとつである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づく「会員への情報提供」の一環として，国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」を日本薬理学会 HP に開設している．国際交流イベント情報を掲載していくとともに， IUPHAR, APFP, KPS, CNPHARS, ASCEPT, ASPET, BPS と連携した活動を紹介している．また，IUPHAR の薬物標的・創薬標的データベース Guide-to-Pharmacology および薬理学電子教科書 IUPHAR Pharmacology Education Project (PEP)，WCP2018 (Kyoto)アーカイブ (YouTube) のバナーを置いている．

4．ASCEPT との講師交換プログラムとして，ASCEPT 年会（2023 年 11 月 20～23 日 Sydney にて開催）に古屋敷智之先生（神戸大学）を講師派遣した．

5．第 9 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting. 2023 年 7 月 24 日～26 日に，中国上海で開催された．（日本薬理学会側代表：古屋敷智之）

6．19th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology (WCP2023) が，2023 年 7 月 2～7 日に Glasgow (英国) で開催された．

7．IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会．第 97 回日本薬理学会年会（今井年会長，神戸）にて，「IUPHAR データベース Guide to Pharmacology，Pharmacology Education Project (PEP) の利用ガイダンス」(2023 年 12 月 16 日 11:30～12:30 第 11 会場）を開催した（演者：金井 好克（大阪大学），冨田 修平（大阪公立大学））．

8．今後の国際交流イベント
APFP (Asia Pacific Federation of Pharmacologists)：2024 年 12 月 1 日～5 日
オーストラリア Melbourne
第 25 回日韓薬理学合同セミナー（Jeju Island, 2024 年 11 月 7～9 日）
（日本側代表：黒川 洵子）

将来構想委員会報告

委員長：杉山　篤
委　員：首藤　剛，津田　誠，西谷 友重，古屋敷智之，三澤日出巳，南　雅文，向田 昌司，森本 達也
オブザーバー: 赤羽 悟美（理事長），安西 尚彦，今井由美子，白川 久志

Zoom ミーティングによる委員会を 4 回開催し，所管事項について検討を行った．

1．薬理学会年会への参加者数（参加率）を増やす取り組みについて
第 96 回年会参加者および不参加者を対象としたアンケートの結果を日薬理誌 11 月号に掲載した．より多くの方々にアンケート情報を届けるために，広報委員会のご高配でオープンアクセス扱いにしていただいた．APPW2025（第 98 回年会）における他学会との合同企画の準備資料としても役立てていただくことを期待している．

2．ダイバーシティの活動について
1）男女共同参画学協会連絡会について
男女共同参画学協会連絡会へ正式加盟学会として参画することが第 4 回理事会（12 月 13 日）で提案され，異議なく承認された．加盟が正式決定した際は，将来構想委員会が担当委員会として活動報告などを行う．
2）令和 5 年度ダイバーシティ推進ランチョンセミナーについて
第 97 回年会において，12 月 16 日（土）11：30～12：30 に，「デジタル化が進展する社会における新たなる研究・教育スタイル」をテーマに，株式会社 Co-LABO MAKER の代表取締役社長 古谷 優貴氏，株式会社ジョリーグッドの細木 豪氏に登壇していただき「時間と空間に捉われない研究および教育の可能性」について講演していただいた．参加者へのアンケートでも高評価であった．
3）その他
APPW2025（第 98 回年会）における 3 学会合同の男女共同参画の企画準備を開始した．

3．次期副理事長の選考方法について
次期副理事長の選考方法については，第 3 回理事会（8 月 28 日）で当委員会から頭出しを行い，第 4 回理事会（12 月 13 日）において古屋敷総務委員長を中心に議論していただいた．

４．第 97 回年会における Meet the Professors 企画について
12 月 15 日（金）に信州大学・山田 充彦 教授による「薬理学における電気生理学的手法の未来と可能性」，12 月 16 日（土）に京都大学・金子 周司 教授による「次世代の薬理研究者に知っておいてもらいたい臨床データの有用性・落とし穴」をテーマに開催された．APPW2025（第 98 回年会）においても，Meet the Professors 企画を継承していただくことを期待している．

５．日本薬理学会将来構想委員会規定について
2022 年 4 月に特別委員会として発足したため，実際に活動を進め，1 年後に規定を作成することになっていた．規定案を作成し第 4 回理事会（12 月 13 日）で提案し，承認された．

DX 推進委員会報告
委員長：上原　孝
委　員：安西 尚彦，池谷 裕二，金子 雅幸，諫田 泰成，三枝　禎，坂本 謙司，土屋浩一郎，西田 基宏

本年度は対面，Zoom によるオンライン委員会の他，メールによる審議・合意を行った．

１．活動内容
本年度は，薬理学会 100 周年に向けた薬理学会 HP などの改訂について意見の集約を図った．1)前年度より進めていた LinkedIn を諫田委員を中心に作成する方向で進めることとした．なお，コンテンツに関しては，広報委員会・国際対応委員会などとすり合わせが必要であり，今後，詳細を詰めることとする．2) 新 HP のオリジナルコンテンツに関しての整備を進めた．特に，過去の情報のアーカイブ化（教科書・学会情報・退官記念集など),「くすりがわかる」シリーズの動画化，子供・若者向けの薬に関する情報（企業の人にも参加を求める）などが候補となることを確認した．3) 新 HP の作成依頼先に関しては，理事長，総務，広報，国際対応，研究推進委員会との協議で進める．引き続き，関連する委員会にも所属している委員から意見を集約し，議論を深めていくこととした．

２．今後の活動
薬理学会開催時に実施された委員会にて，次年度以降の活動について議論した．1) HP に付随して，LinkedIn や X を活用し最新情報をアップしていく，2) 本委員会は発足間もないので，次年度以降も今年度の委員をオブザーバーとして参加して頂けるよう要請する，3)さらに，新委員として数名の参画を求める，ことが承認された．

日本薬理学会百周年記念事業準備委員会報告
委員長：赤羽 悟美
委　員：池谷 裕二，大久保 洋平，黒川 洵子，小山 隆太，津田　誠，古屋敷智之，宮川 和也，　谷内 一彦
オブザーバー：上原　孝（DX 推進委員会委員長），橋本　均（財務委員長・副理事長）

Zoom によるオンライン会議を 2 回開催した．

１． 2023 年度の活動方針
2027 年 3 月の 100 周年記念大会および記念事業の実施に向けて，事業の大枠を策定し，経費を見積もる．
経費の見積もり金額に基づき，100 周年記念事業積立金の目標金額を設定する．

２． 百周年記念事業準備委員会内規の策定
委員構成や任期等を定めた内規を策定した ．

３． 記念事業（案）について
DX 推進委員会，広報委員会，編集委員会，研究推進委員会をはじめ関連する委員会の協力の下に検討を進めている．

第 100 回日本薬理学会記念年会 年会長選考委員会報告
委員長：赤羽 悟美
委　員：赤池 昭紀，飯野 正光，井上 和秀，金井 好克，成宮　周，谷内 一彦

Zoom によるオンライン会議として開催した．

１．経緯
・第 100 回日本薬理学会年会は 2027 年 3 月に開催され，日本薬理学会創立 100 周年記念の節目となる年会である．理事会において，日本薬理学会創立 100 周年記念のイベントは第 100 回日本薬理学会年会にて執り行うことを決定している．
・これまでの慣例では，日本医学会総会が開催される年の年会は日本医学会総会開催地に合わせることになっていたが，日本薬理学会創立 100 周年記念の特別な年会であることを鑑み，第 32 回日本医学会総会（2027.4.23-4.25 大阪）の開催地に限定せず，全 4 部会から年会長候補者を選出することが，理事会において承認された．

・そこで，年会長候補者の選出と理事会への答申を本委員会に一任することとなった.

２． 選考過程
・各部会に年会長候補者として 3 名以内の推薦を依頼し，西南・近畿・関東の各部会から計 5 名の候補者が出された.
・資料に基づいて各候補者について検討し，選考基準への適合状況を踏まえて，3 名の候補を選定した.
・薬理学会の歴史において節目となる第 100 回薬理学会年会を理事会が一体となって盛り上げていくために，最終候補者は理事会が自身の手で選定するべきと答申した.

次世代の会活動報告

＜2023 年度運営委員＞
北 部 会：川畑伊知郎，田頭 秀章，千葉 彩乃，長沼 史登，根本　亙，
関東部会：小山 隆太，林　良憲，平山 友里，溝口 尚子，道永 昌太郎，宮川 和也（2022～代表），
近畿部会：石澤 有紀，衣斐 大祐，大内 一輝，大垣 隆一，篠原 亮太，鈴木 良明，坪田 真帆，中村 庸輝，永安 一樹，
　　西山 和宏
西南部会：市原 克則，清水 孝洋，藤川理沙子，向田 昌司，矢吹　悌，山下 智大
2023 年度は随時メール会議を行い，97 回年会の際にハイブリッド会議を実施した.

１．メンバー編成
・規定による退会者はなし.
・2023 年より，下記の先生が次世代の会運営委員に就任された.
　田頭 秀章 先生（秋田大学大学院医学系研究科器官・統合生理学講座）
　千葉 彩乃 先生（山形大学医学部薬理学講座）
　根本　亙 先生（東北医科薬科大学薬学部薬理学教室）
　大内 一輝 先生（岐阜薬科大学薬学部薬物治療学研究室）
　中村 庸輝 先生（広島大学大学院医系科学研究科薬効解析科学研究室）
　西山 和宏 先生（大阪公立大学大学院獣医学研究科予防薬理学教室）
　市原 克則 先生（鳥取大学医学部薬理学・薬物療法学分野）

２．次世代薬理学セミナー
・次世代薬理学セミナー 2023 in 東京：グリア細胞を標的とした行動薬理学研究
　第 147 回関東部会（2023 年 3 月 21 日，東京大学：廣瀬 謙造先生）にてハイブリッド開催
　担当：宮川 和也（国際医療福祉大学）
・次世代薬理学セミナー 2023 in 沖縄：多様な手法による生命現象解明への挑戦
　第 76 回西南部会（2023 年 10 月 7 日，琉球大学：筒井 正人先生）にてハイブリッド開催
　担当：矢吹　悌（熊本大学）

３． 第 97 回日本薬理学会年会@兵庫（2023 年 12 月）における次世代の会企画
・次世代の会企画シンポジウム
　「縫線核の多彩な機能とその神経メカニズム」担当：永安 一樹（京都大学）
　「相分離が織りなす生命現象」担当：矢吹　悌（熊本大学）
・「日本薬理学会若手会員（学生・ポスドク）と大学等研究室や製薬企業等とのマッチングイベント（次世代の会・研究推進委員会・企画教育委員会合同企画）」
　担当：鈴木 良明（名古屋市立大学），宮川 和也（国際医療福祉大学）
・子育て奮闘研究者応援－Z 世代育児と仕事の流儀
　担当：石澤 有紀（徳島大学），坪田 真帆（近畿大学），中村 庸輝（広島大学）
・学生セッション
　全体オーガナイズ・・・担当：大垣 隆一（大阪大学），宮川 和也（国際医療福祉大学），
　座長・審査員・・・担当：多数

４．次回次世代薬理学セミナーは，第 75 回日本薬理学会北部会（2024 年 9 月 21 日，岩手医科大学：平 英一 先生）にてハイブリッド開催を行う予定．担当：田頭 秀章（秋田大学）千葉 彩乃（山形大学）根本　亙（東北医科薬科大学）

５． 次々回次世代薬理学セミナーは，第 141 回日本薬理学会関東部会（2024 年 10 月 12 日，星薬科大学：成田　年 先生）にて開催予定．担当：道永昌太郎（明治薬科大学）

６． 次世代の会 HP（http://angesjps.umin.jp）の運営
2024 年より，プリプレスに業務移管した.
担当：清水 孝洋（高知大学），林　良憲（日本大学），宮川 和也（国際医療福祉大学）

７．その他：各種委員会への参画，Rising Star リトリートの候補者推薦

X．2024 年度新学術評議員申請者一覧（18 名）

※ 五 十 音 順

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
1	浅野 昂志	富山大学学術研究部薬学・和漢系薬物治療学研究室 助教	10	中枢神経薬理	7 (7)	16	0	新田 淳美
2	市原 克則	鳥取大学医学部薬理学薬物療法学助教	7	内分泌薬理	11 (11)	5	0	今村 武史
3	大内 一輝	岐阜薬科大学薬物治療学研究室助教	10	中枢神経薬理	19 (19)	10	0	原 英彰
4	刀坂　泰史	静岡県立大学薬学部分子病態学分野講師	11	心血管薬理	62 (58)	37	1	森本 達也
5	北風 圭介	川崎医科大学薬理学教室 助教	5	生化学薬理	17 (17)	16	0	岡本 安雄
6	兒玉 安史	広島国際大学 薬学部 准教授	20	その他（実験病理学）	27 (7)	5	0	石原 熊寿
7	坂根可奈子	島根大学医学部基礎看護学講座助教	6	その他（看護薬理学）	35 (5)	6	0	小林 裕太
8	新谷 勇介	神戸大学医学部特命助教	7	中枢神経薬理	6 (6)	4	0	橋本 均
9	砂川 陽一	静岡県立大学薬学部分子病態学分野講師	8	Cardiovascular pharmacology/Hematology	63 (56)	65	4	森本 達也
10	徳留　健	横浜市立大学医学部 薬理学教室 主任教授	6	生理活性物質	62 (50)	1	0	冨田 修平
11	中村 和弘	名古屋大学大学院医学系研究科統合生理学分野　教授	11	中枢神経薬理	99 (52)	2	0	赤羽 悟美
12	新村 貴博	徳島大学病院 総合臨床研究センター 特任助教	6	臨床薬理	50(44)	29	0	石津 啓介
13	林　　貴史	東北医科薬科大学薬剤学教室 講師	6	中枢神経薬理	31(31)	8	1	原 明義
14	原田 佳奈	広島大学大学院医系科学研究科神経薬理学　助教	18	中枢神経薬理	23 (23)	43	4	酒井 規雄
15	東　　恒仁	北海道大学大学院医学研究院細胞薬理学教室 助教	12	毒科学	51 (38)	34	5	吉川 雄朗

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
16	森田亜須可	獨協医科大学医学部薬理学講座助教	9	生理活性物質	17(16)	6	2	藤田 朋恵

特例措置

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
17	兵藤 文紀	岐阜大学大学院医学系研究科薬理病態学分野 教授	1	その他（薬効の機能・代謝イメージング）	135（101）	0	0	日比野 浩
18	丸山　健太	愛知医科大学医学部薬理学講座教授	1	免疫薬理・炎症	33（33）	0	0	赤羽 悟美

XI. 日本薬理学会「薬理学エデュケーター」認定者名簿（16 名／五十音順）

（認定期間：令和 6 年 1 月 1 日～令和 10 年 12 月 31 日）

石兼　　真	産業医科大学
衣斐　大祐	名城大学
今井　利安	日本ケミファ株式会社
太田　利男	鳥取大学
佐藤慶太郎	明海大学
鹿内　浩樹	北海道医療大学
高橋　聡子	神奈川歯科大学
冨田　拓郎	信州大学
中山　　恒	旭川医科大学
長谷川　雄	国際医療福祉大学
廣野　守俊	和歌山県立医科大学
細谷　拓司	株式会社富士薬品
松田　将也	摂南大学
山口　雄大	国立感染症研究所
吉原　達也	福岡みらい病院臨床研究センター
若森　　実	東北大学

第 39 回日本薬理学会学術奨励賞受賞者

（五十音順）

鈴木　良明（名古屋市立大学大学院薬学研究科　講師）
『カルシウムマイクロドメインによる血管機能制御機構の解明』

永安　一樹（京都大学大学院薬学研究科　助教）
『情動制御およびストレス抵抗性におけるセロトニン神経の役割に関する研究』

矢吹　　悌（熊本大学発生医学研究所　准教授）
『プリオン性タンパク質凝集機構の解明と創薬応用に関する薬理学的研究』